

広島県子供の生活に関する実態調査結果について

1 要旨・目的

次期「ひろしま子供の未来応援プラン」の策定に向け、現状を把握するとともに、新たな施策や現在取り組んでいる施策の強化の必要性等を確認するため、県内の子供と保護者を対象に実施した「広島県子供の生活に関する実態調査」について、調査結果をとりまとめたので報告する。

2 現状・背景

- 現行の「ひろしま子供の未来応援プラン」（計画期間：令和2～6年度）策定にあたり、平成29年度に「広島県子供の生活に関する実態調査」を実施し、調査結果を踏まえ、必要施策の充実などを同プランに盛り込んだ。
- また、令和4年6月に制定されたこども基本法では、都道府県の役割として、「都道府県こども計画」の策定や、子供施策の策定、実施及び評価の過程で子供や子育て当事者等の意見を反映させるために必要な措置を講ずることが求められている。

3 概要

(1) 調査対象

県内の小学5年生とその保護者及び中学2年生とその保護者

区 分		小学5年生の世帯	中学2年生の世帯
調査対象者数	子 供	12,259 人	11,639 人
	保護者	12,259 人	11,639 人
有効回答数 (回答率)	子 供	8,273 人 (67.5%)	7,164 人 (61.6%)
	保護者	8,087 人 (66.0%)	6,928 人 (59.5%)

※実施主体となった各市町の内訳は別紙1のとおり。

(2) 調査期間

令和5年6月～12月

(3) 調査結果の概要

別紙2のとおり

(4) 今後の対応

次期プラン策定過程において、本調査結果から把握した子供の生活実態や子供の意見も踏まえ、子供未来応援PTを活用し、注力する施策の方向性を検討し、反映する。

4 その他

調査結果の全体の報告書は、広島県ホームページに掲載する。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/248/r5seikatsujittaikekka.html>

トップページ > 組織でさがす > 健康福祉局 > 子供未来応援課 > 令和5年度広島県子供の生活に関する実態調査結果について

【参考】実施主体ごとの調査方法及び有効回答率

○調査の実施主体は県であるが、次の6市町の市立・町立の小学校・中学校については、それぞれの市町が実施主体となっている。

広島市、呉市、三原市、福山市、安芸高田市、府中町

【各実施主体の内訳】

実施主体	調査の方法など	調査対象区分		有効回答率 (%)
広島県	[抽出方法] 県内市立・県立・私立・国立の小学5年生及び中学2年生より、各小学校・中学校にて原則として各1組を抽出 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収 (インターネット回答も可)	小5	子 供	80.3
			保 護 者	81.1
		中2	子 供	77.3
			保 護 者	77.4
広島市	[抽出方法] 市内在住の小学5年生・中学2年生を対象に無作為抽出 [配布・回収方法] 郵送にて配布・回収	小5	子 供	35.3
			保 護 者	35.2
		中2	子 供	32.3
			保 護 者	32.3
呉市	[抽出方法] 市立小学5年生・中学2年生全員 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収	小5	子 供	88.6
			保 護 者	88.3
		中2	子 供	83.9
			保 護 者	83.9
三原市	[抽出方法] 市立小学5年生・中学2年生全員 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収 (インターネット回答)	小5	子 供	89.4
			保 護 者	59.1
		中2	子 供	71.4
			保 護 者	35.1
福山市	[抽出方法] 市立小学5年生・中学2年生全員 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収	小5	子 供	79.6
			保 護 者	80.1
		中2	子 供	72.1
			保 護 者	72.4
安芸高田市	[抽出方法] 市立小学5年生・中学2年生全員 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収	小5	子 供	79.9
			保 護 者	81.5
		中2	子 供	75.3
			保 護 者	75.3
府中町	[抽出方法] 町立小学5年生・中学2年生全員 [配布・回収方法] 小学校・中学校を通じて配布・回収	小5	子 供	87.4
			保 護 者	87.8
		中2	子 供	73.2
			保 護 者	74.0

調査結果の概要

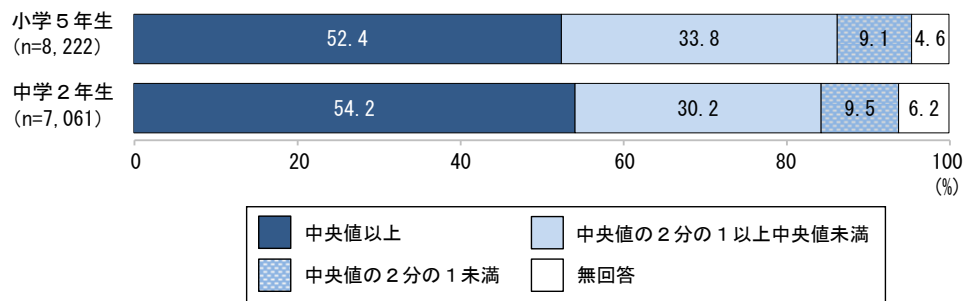
1 経済的な状況

- 世帯の年間収入の水準について、次のとおり等価世帯収入を算出したところ、本調査における等価世帯収入の中央値は290.69万円、その2分の1は145.345万円であった¹。

《等価世帯収入の算出》

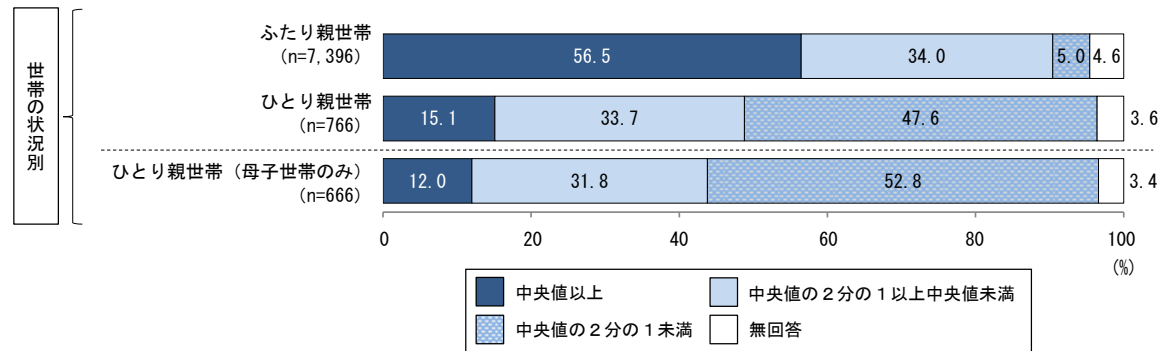
- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする）。
- 上記の値を、保護者票問3で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

- 等価世帯収入の水準別に世帯を分類すると、「中央値の2分の1未満」に該当する世帯は、小学校5年生の世帯で9.1%、中学校2年生の世帯で9.5%であった。

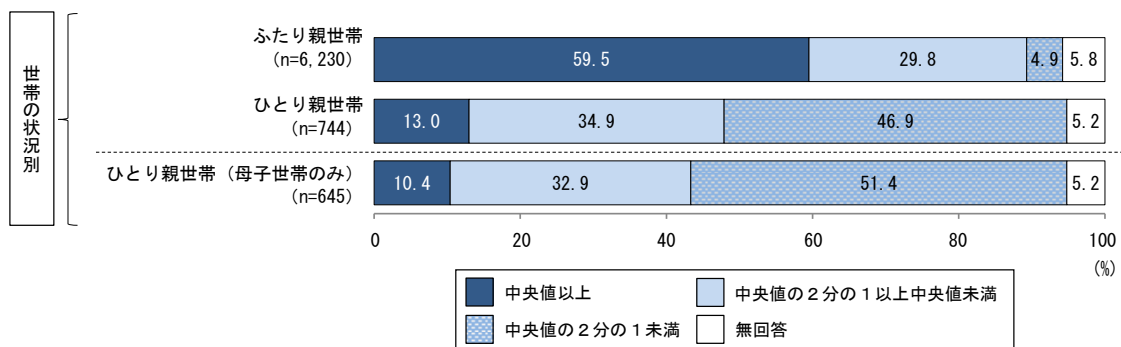


- 世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する世帯が、小学校5年生の世帯で47.6%、中学校2年生の世帯で46.9%であった。

【小学5年生世帯】



【中学2年生世帯】



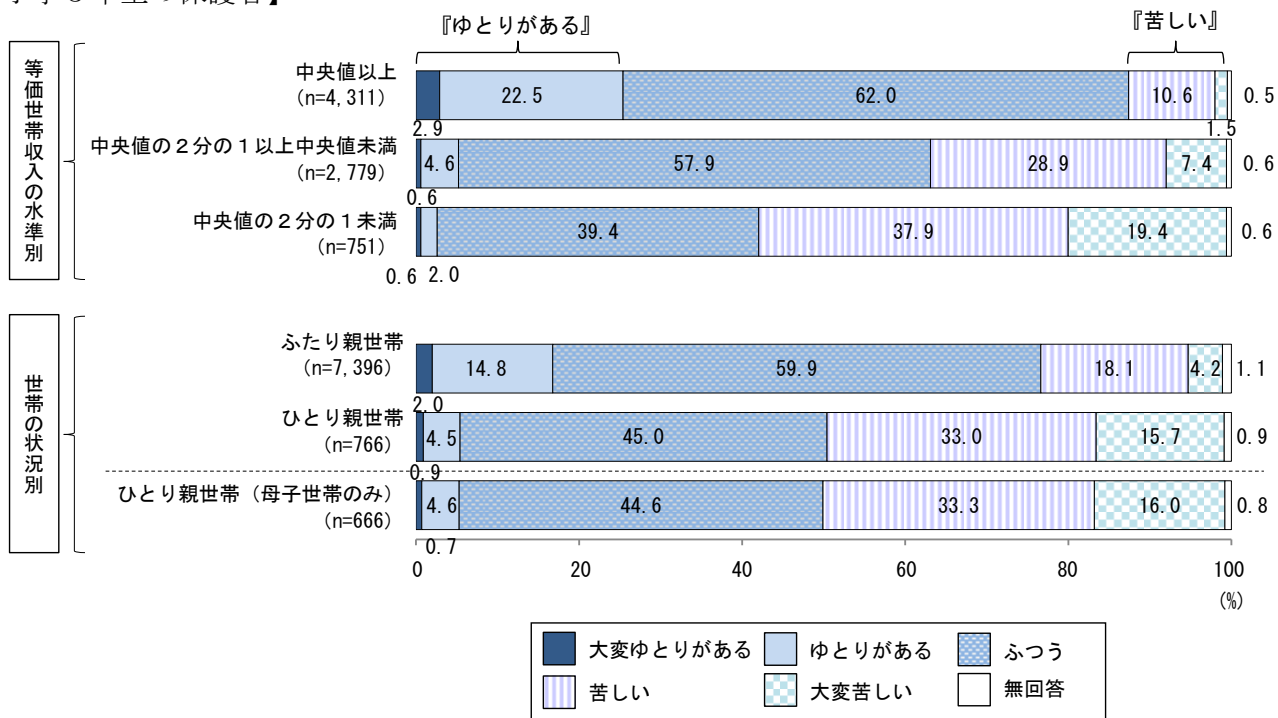
¹ 世帯員1人当たりの値であり、世帯人員に割り戻した場合、2人世帯では約205.5万円、3人世帯では約251.7万円、4人世帯では約290.7万円となる。

2 暮らしの状況

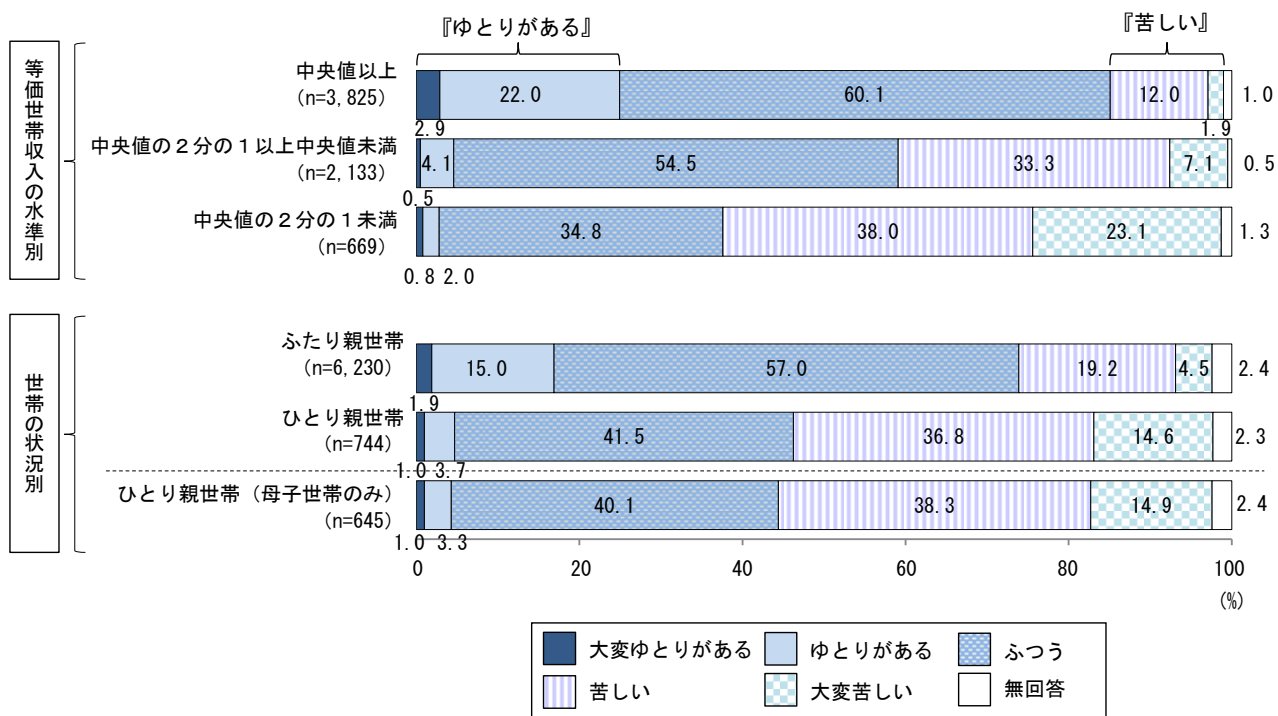
- 等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯では『苦しい』との回答が約5～6割となっており、「中央値以上」や「ふたり親世帯」と比べて大きな差がみられる。(グラフ①)

<グラフ① 現在の暮らしの状況>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



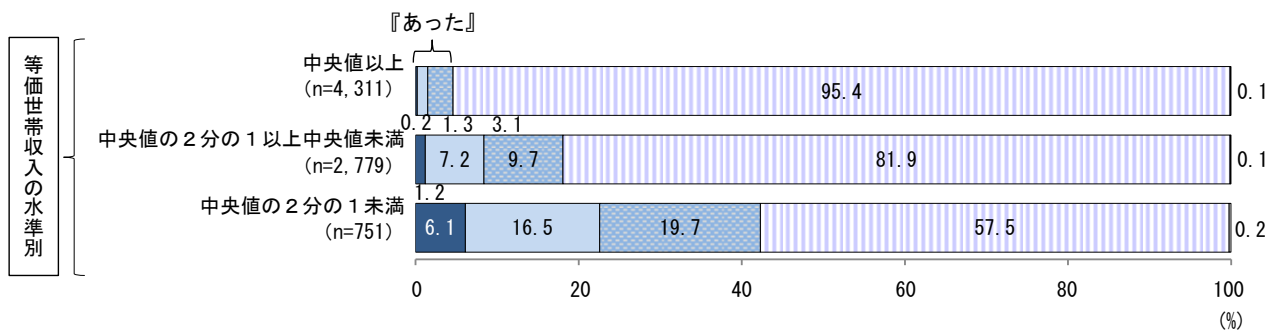
(参考) 現在の暮らしの状況について、本調査と平成 29 年度に実施した「広島県子供の生活に関する実態調査」の結果を比較すると、「ゆとりがある」「ふつう」が増加し、「苦しい」「大変苦しい」は減少している。

区分		全 体	大変ゆとりがある	ゆとりがある	ふつう	苦しい	大変苦しい	無回答
小学 5 年生 世帯	H29	100%	2.0%	6.8%	49.2%	30.5%	9.9%	1.6%
	R5	100%	1.8%	13.8%	58.4%	19.5%	5.3%	1.1%
中学 2 年生 世帯	H29	100%	1.9%	6.2%	48.3%	30.6%	11.4%	1.6%
	R5	100%	1.8%	13.7%	55.2%	21.1%	5.6%	2.6%

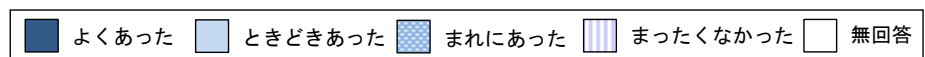
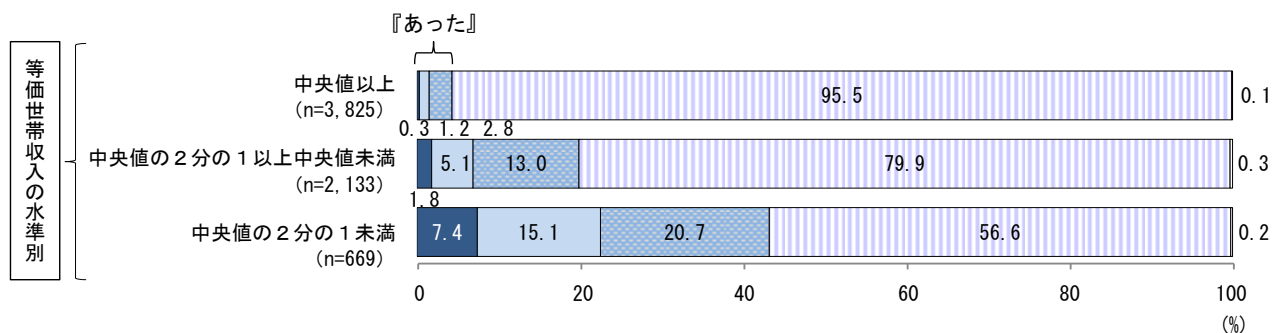
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、過去 1 年間に経済的な理由で食料や衣服を買えなかったことや公共料金の未払いになったことがある割合が高くなっており、特に収入の水準が最も低い世帯では、食料や衣服が買えなかったことがある割合は、小学 5 年生の世帯、中学 2 年生の世帯のいずれも 4 割以上となっている。(グラフ②、③)

<グラフ② 過去 1 年間に経済的な理由で食料が買えなかった経験>

【小学 5 年生の保護者】

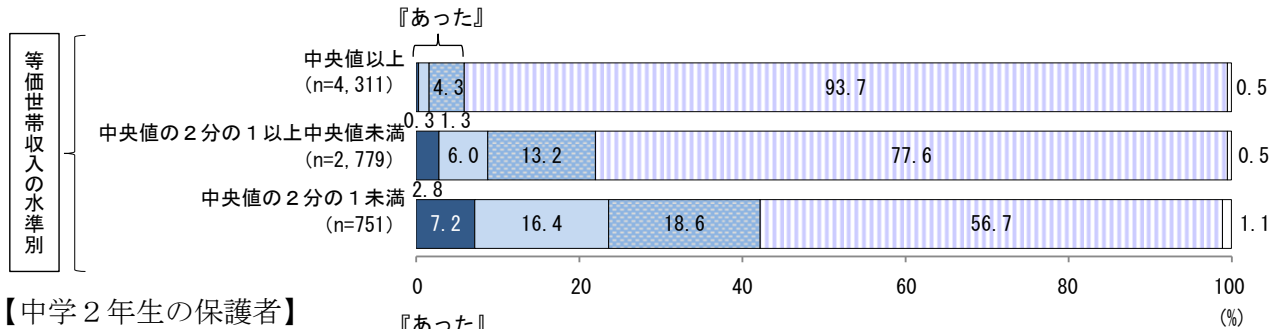


【中学 2 年生の保護者】

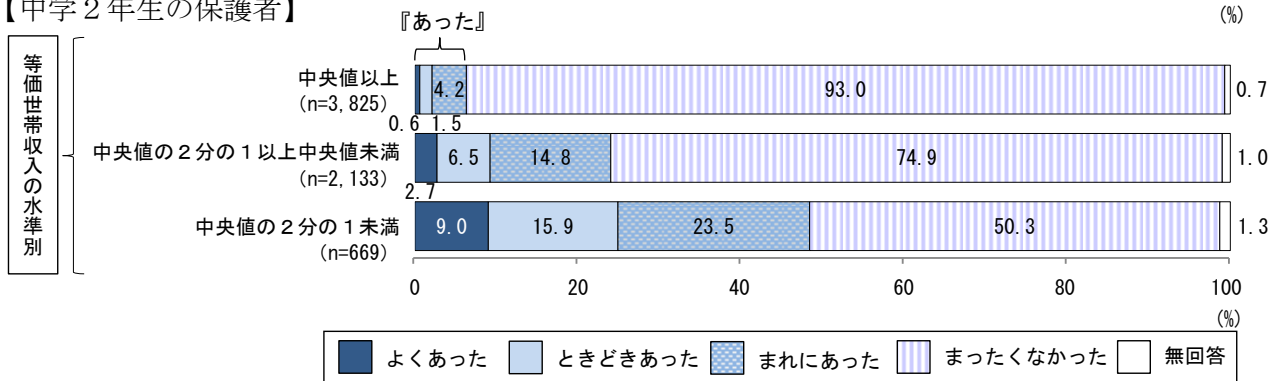


<グラフ③ 過去1年間に経済的な理由で衣服が買えなかった経験>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



(参考) 平成29年度調査の結果と比較すると、電気・ガス・水道料金が払えなかった経験がある割合はやや減少し、食料や衣服が買えなかった経験については、「まれにあった」が減少し「まったくなかった」の割合がやや増加している。

【食料が買えなかった経験 (過去1年)】

区分		全体	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答
小学5年生世帯	H29	100%	1.4%	3.8%	9.4%	83.7%	1.7%
	R5	100%	1.1%	4.7%	6.9%	86.3%	1.0%
中学2年生世帯	H29	100%	1.5%	4.3%	9.5%	83.0%	1.7%
	R5	100%	1.5%	3.8%	7.6%	84.7%	2.5%

【衣服が買えなかった経験 (過去1年)】

区分		全体	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答
小学5年生世帯	H29	100%	2.6%	4.3%	12.1%	79.0%	1.9%
	R5	100%	1.8%	4.3%	8.7%	84.1%	1.1%
中学2年生世帯	H29	100%	2.8%	4.4%	12.8%	78.1%	1.9%
	R5	100%	2.1%	4.5%	9.5%	82.3%	1.6%

【公共料金の未払いの経験があったと回答した割合 (過去1年)】

区分		電気料金	ガス料金	水道料金
小学5年生世帯	H29	3.6%	3.3%	3.6%
	R5	3.6%	2.3%	2.5%
中学2年生世帯	H29	3.0%	2.6%	3.0%
	R5	3.3%	2.4%	2.7%

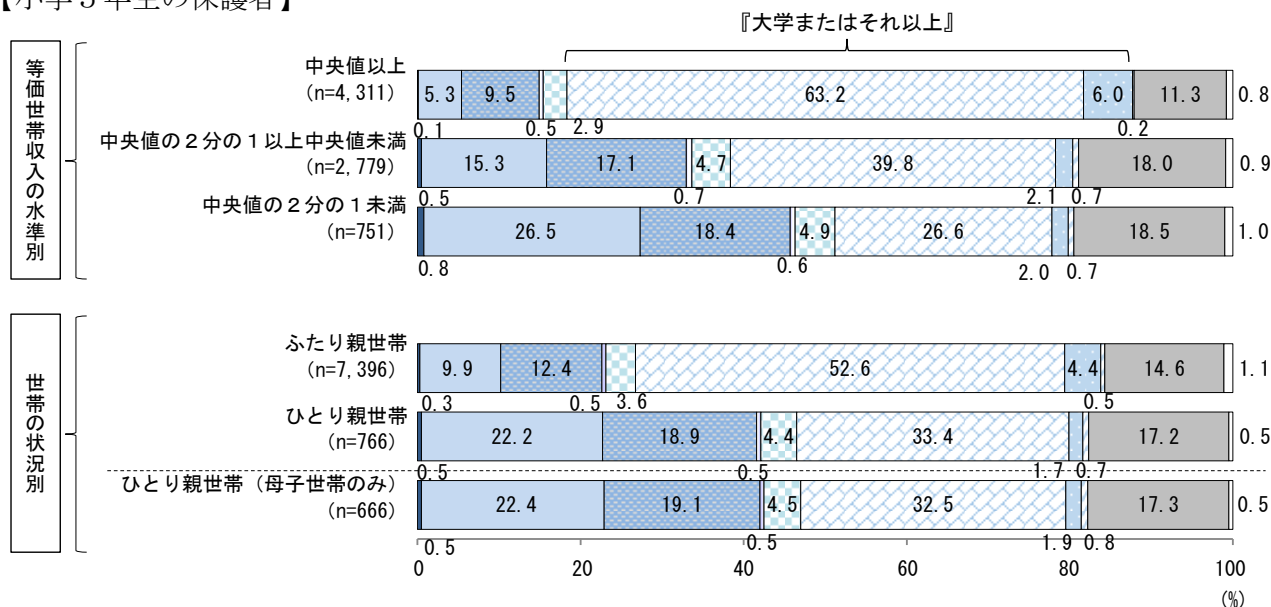
3 保護者の状況

(1) 子供の進学先の展望

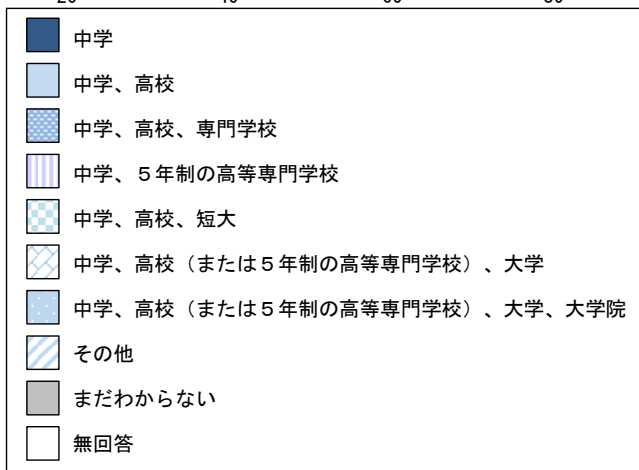
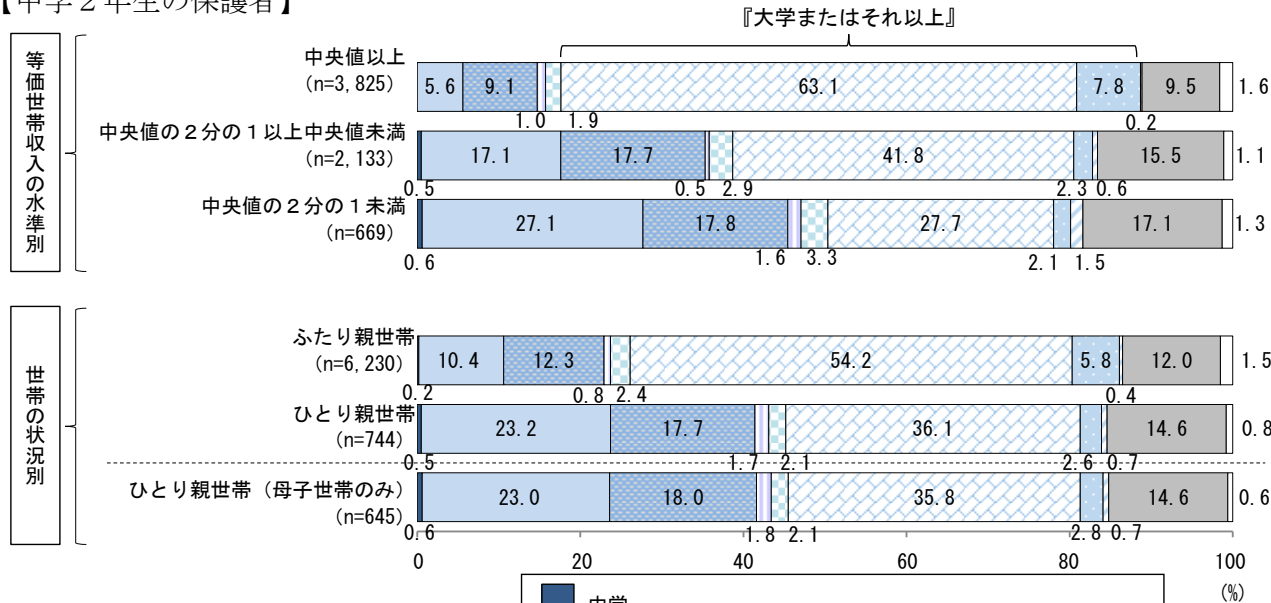
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では『大学またはそれ以上』を希望する割合が低くなっている。(グラフ④)

<グラフ④ 子供の進学先の展望>

【小学5年生の保護者】



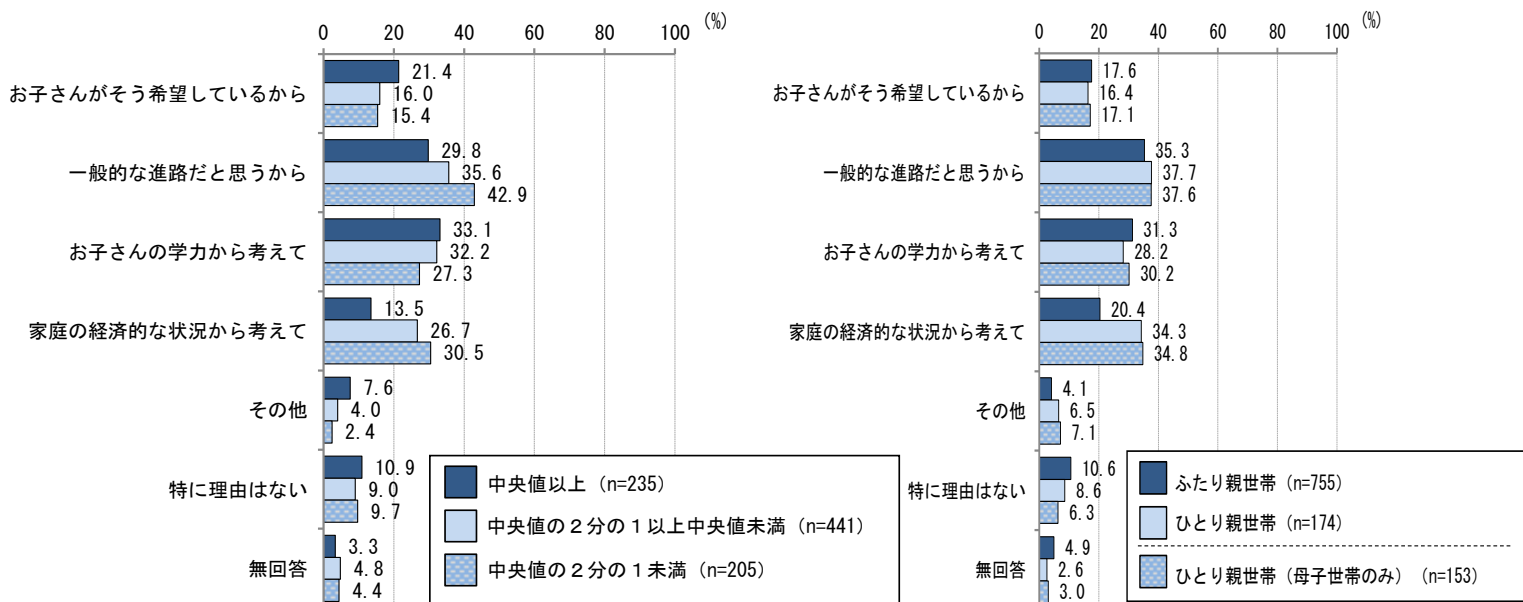
【中学2年生の保護者】



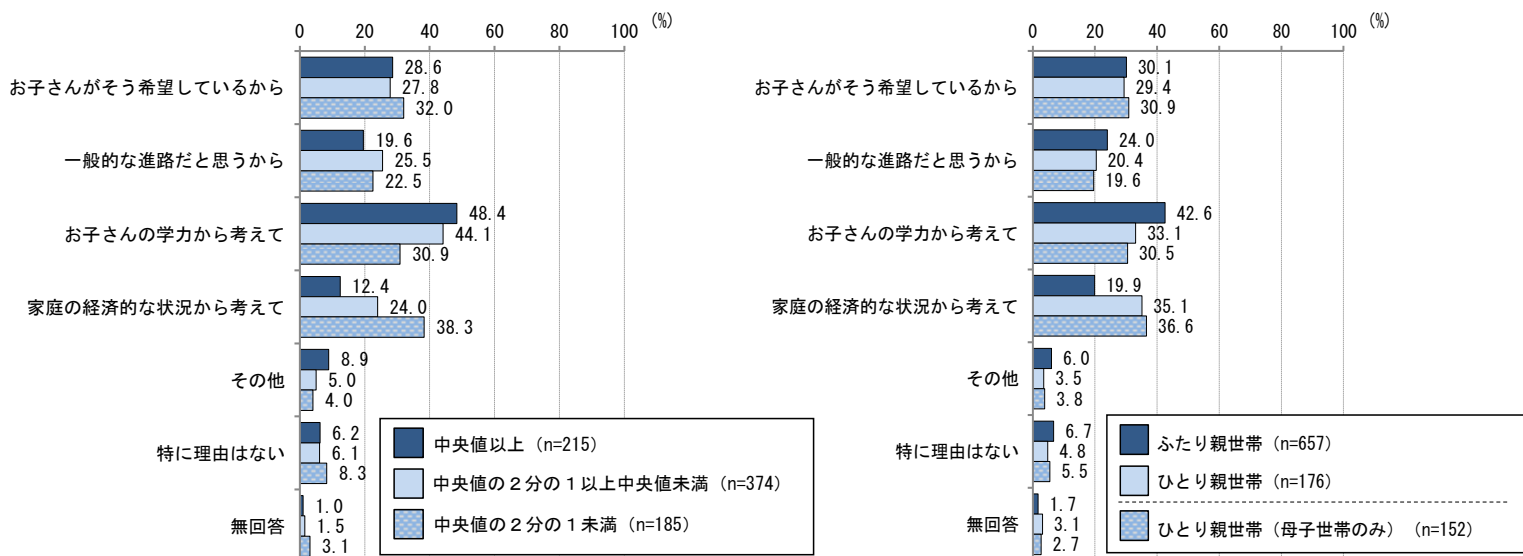
○ 『高校まで』と考える理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では『家庭の経済的な状況から考えて』と回答する割合が高くなっている。(グラフ⑤)

＜グラフ⑤ 子供の進学先の展望 = 「高校まで」と考える理由＝＞

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



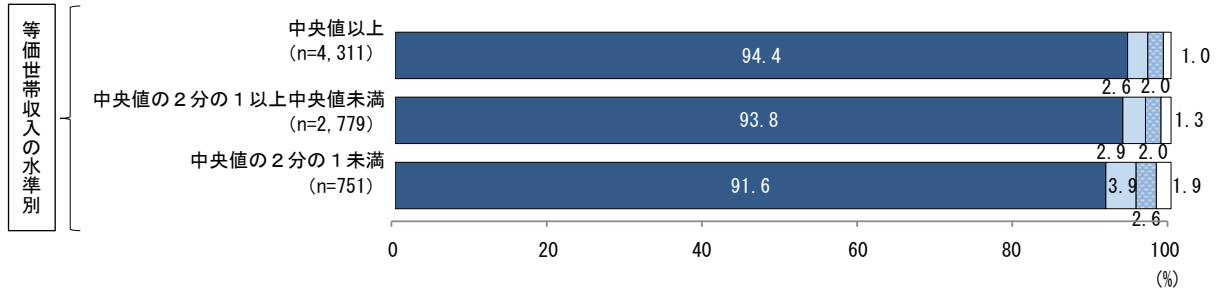
(2) 頼れる人の有無

- 子育てに関する相談で頼れる人がいないとの回答は、特に中学2年生世帯では収入の水準が低いほど高い傾向がある（グラフ⑥）。頼れる人がいない人は、頼れる人がいる人に比べ、最近の生活への満足度が低くなっている（グラフ⑦）。

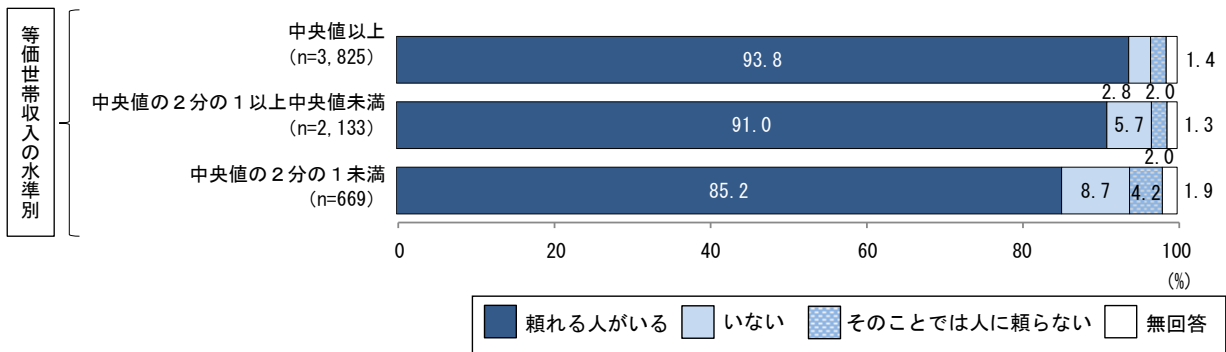
* 「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）のうち該当する数字を選択。

<グラフ⑥ 子育てに関する相談で頼れる人の有無>

【小学5年生の保護者】

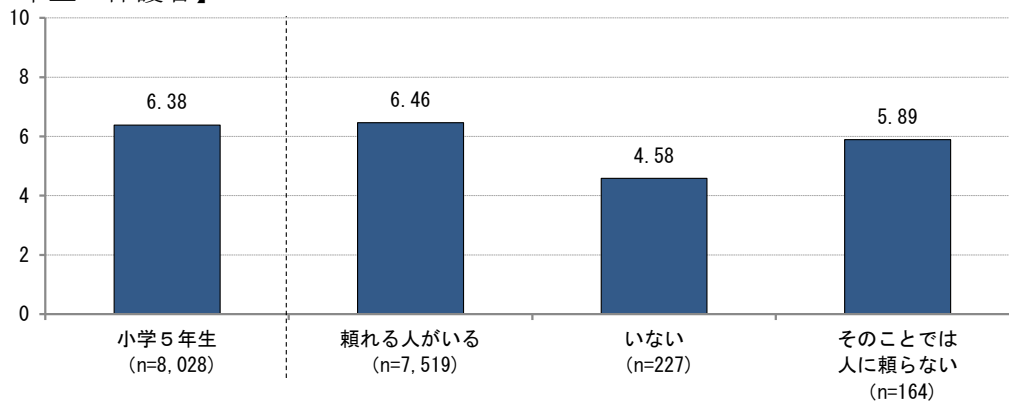


【中学2年生の保護者】

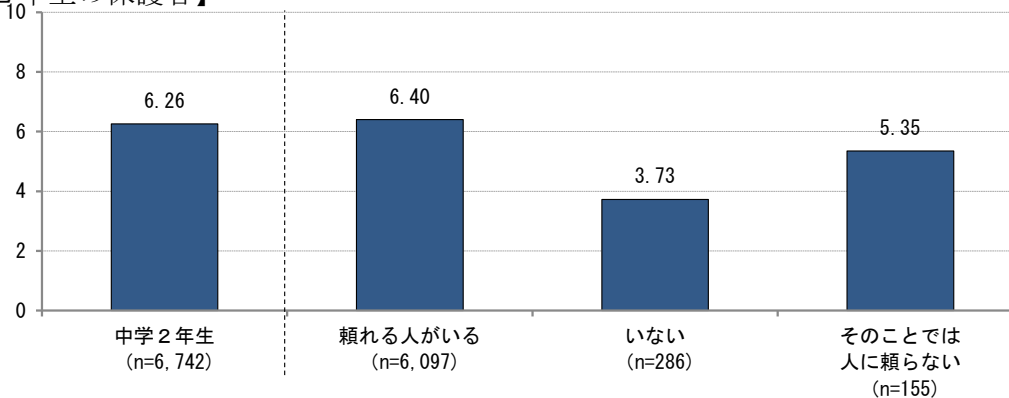


<グラフ⑦ 子育てに関する相談で頼れる人の有無別の生活満足度>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



(3) 心理的な状態

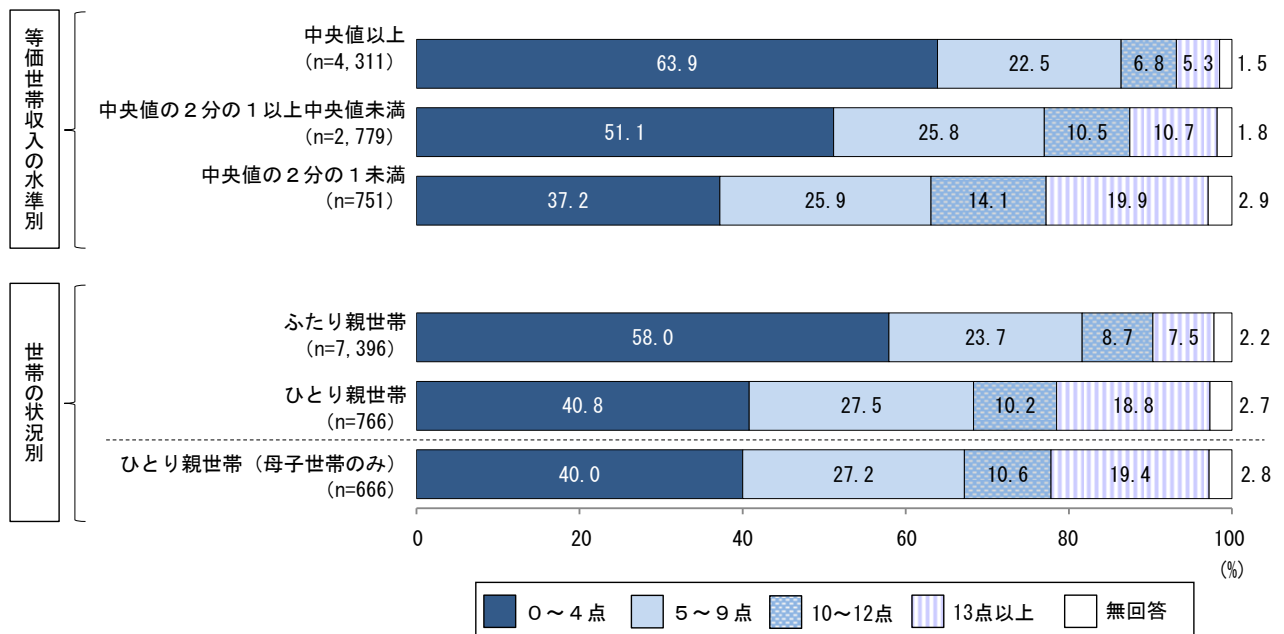
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合（13点以上）は高くなっている。（グラフ⑧）

<グラフ⑧ 保護者の心理的な状態>

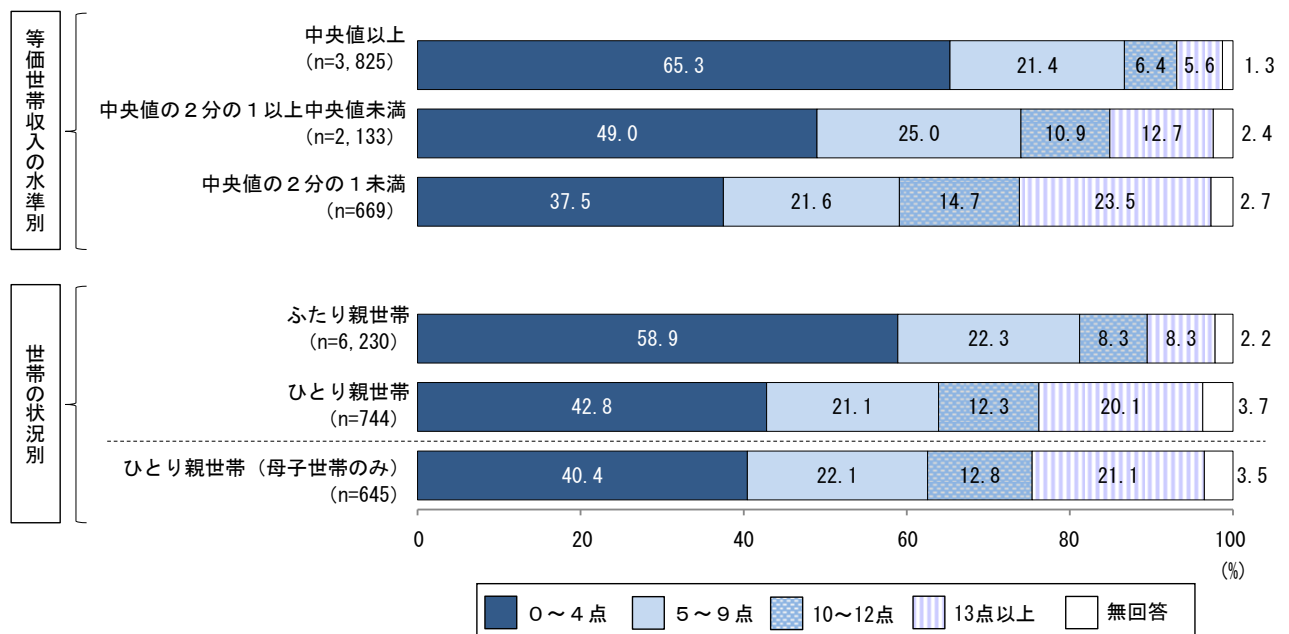
本調査では「保護者の心理的な状態」に関して、次の6つの質問ごとに0点（「5 まったくない」）から4点（「1 いつも」）を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

- a. 神経過敏に感じた b. 絶望的だと感じた c. そろそろ、落ち着かなく感じた
 d. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
 e. 何をやるのも面倒だと感じた f. 自分は価値のない人間だと感じた

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



(参考) 平成 29 年度調査の結果と比較すると、スコアが高い傾向があり、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合も高くなっている。

<スコア (世帯状況別) >

子供の学年	世帯	調査年	0～4点	5～9点	10～12点	13点以上	無回答
小学5年生世帯	全体	H29	65.4%	19.7%	6.0%	5.7%	3.2%
		R5	56.3%	24.0%	8.9%	8.5%	2.3%
	ふたり親	H29	67.6%	19.3%	5.6%	4.8%	2.7%
		R5	58.0%	23.7%	8.7%	7.5%	2.2%
	ひとり親	H29	51.6%	23.5%	8.3%	13.2%	3.4%
		R5	40.8%	27.5%	10.2%	18.8%	2.7%
中学2年生世帯	全体	H29	64.9%	19.6%	6.1%	5.5%	3.9%
		R5	57.0%	22.1%	8.7%	9.6%	2.6%
	ふたり親	H29	67.1%	19.1%	5.8%	4.7%	3.3%
		R5	58.9%	22.3%	8.3%	8.3%	2.2%
	ひとり親	H29	53.0%	22.7%	8.1%	11.1%	5.0%
		R5	42.8%	21.1%	12.3%	20.1%	3.7%

※平成 29 年度調査は WB 前のデータより子供未来応援課作成

<スコア (暮らしの状況別) >

子供の学年	暮らしの状況	調査年	0～4点	5～9点	10～12点	13点以上	無回答
小学5年生世帯	ゆとりがある	H29	77.1%	15.9%	3.1%	2.2%	1.8%
		R5	74.1%	16.5%	5.3%	2.8%	1.3%
	ふつう	H29	74.2%	16.7%	4.3%	2.4%	2.5%
		R5	62.5%	22.8%	7.1%	4.9%	2.6%
	苦しい	H29	53.4%	24.4%	8.6%	10.5%	3.1%
		R5	31.3%	29.0%	15.4%	20.7%	3.6%
中学2年生世帯	ゆとりがある	H29	73.5%	15.6%	6.3%	3.5%	1.1%
		R5	75.7%	15.9%	3.7%	2.9%	1.8%
	ふつう	H29	75.1%	15.9%	3.7%	2.2%	3.1%
		R5	63.2%	21.7%	7.0%	4.7%	3.5%
	苦しい	H29	53.1%	24.7%	8.9%	9.6%	3.7%
		R5	31.6%	27.4%	13.9%	22.5%	4.5%

※WB 前のデータより子供未来応援課作成

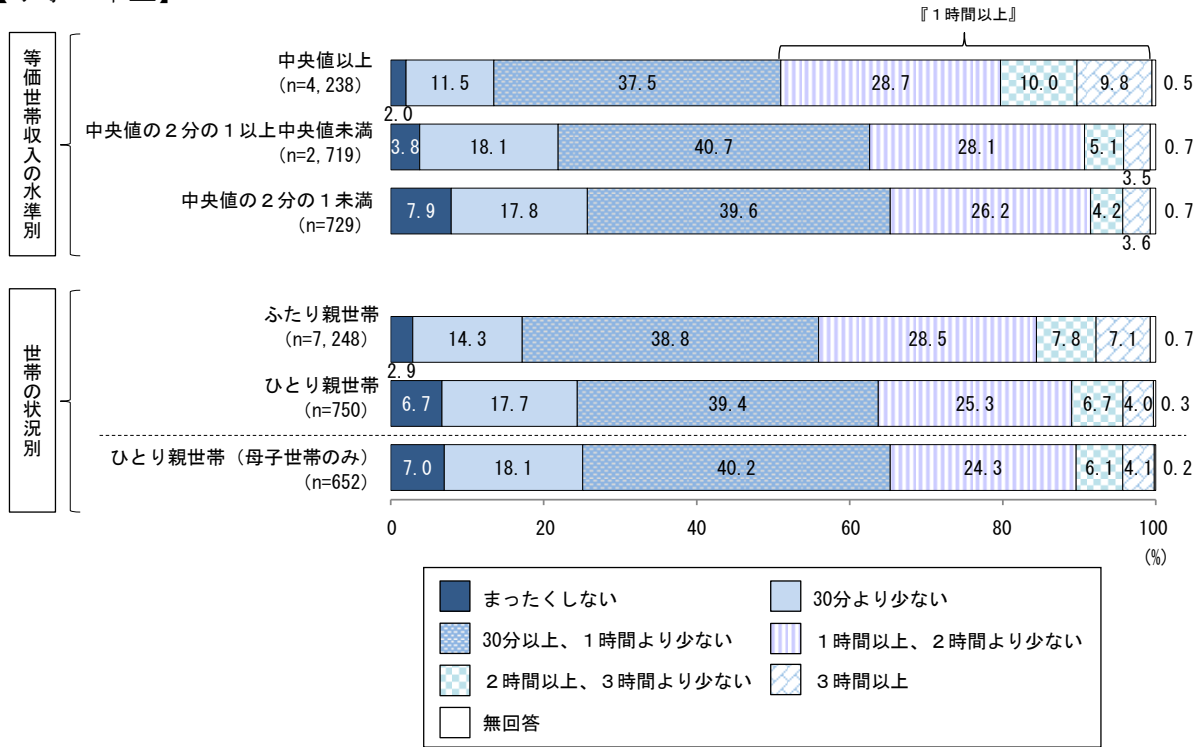
4 子供の状況

(1) 学習の状況

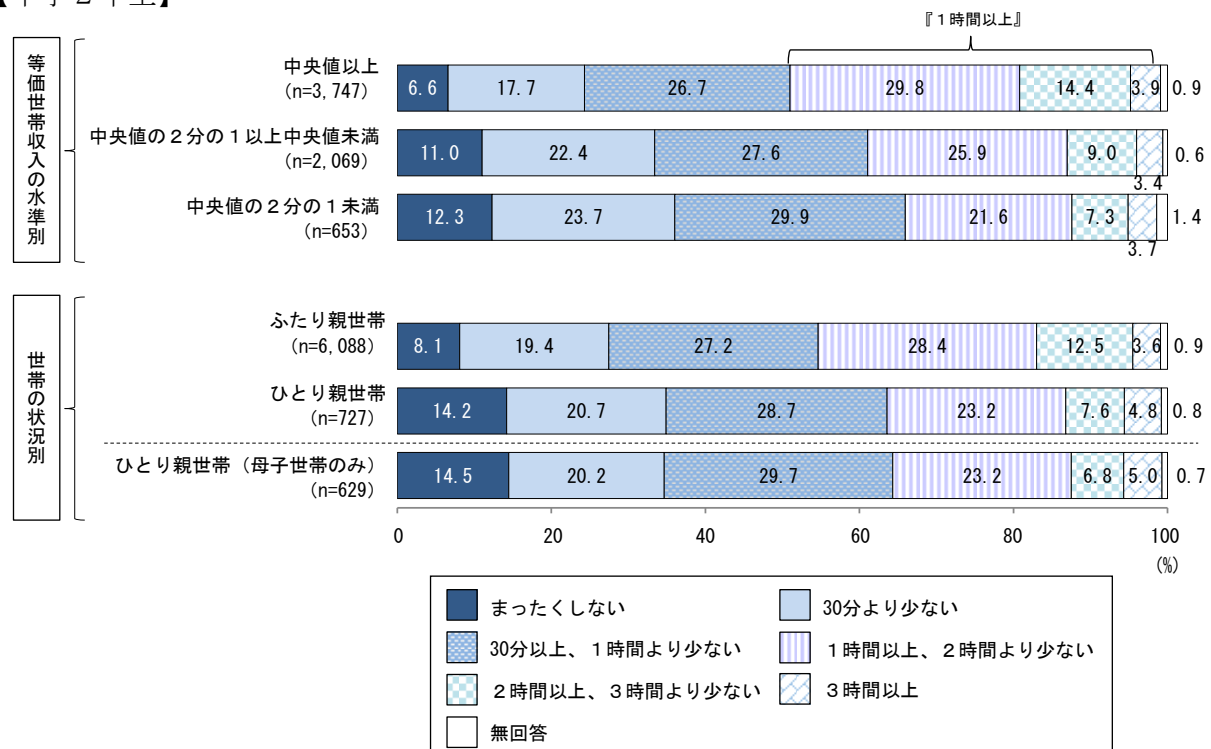
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、収入の水準が高い世帯やふたり親世帯に比べて、学校の授業以外での1日あたりの勉強時間が短く（グラフ⑨、⑩）、学校の授業がわからないと感じる子供の割合が多く（グラフ⑪）、自分自身の成績評価が低い（グラフ⑫）。

<グラフ⑨ 学校の授業以外での1日当たりの勉強時間 =学校がある日=>

【小学5年生】

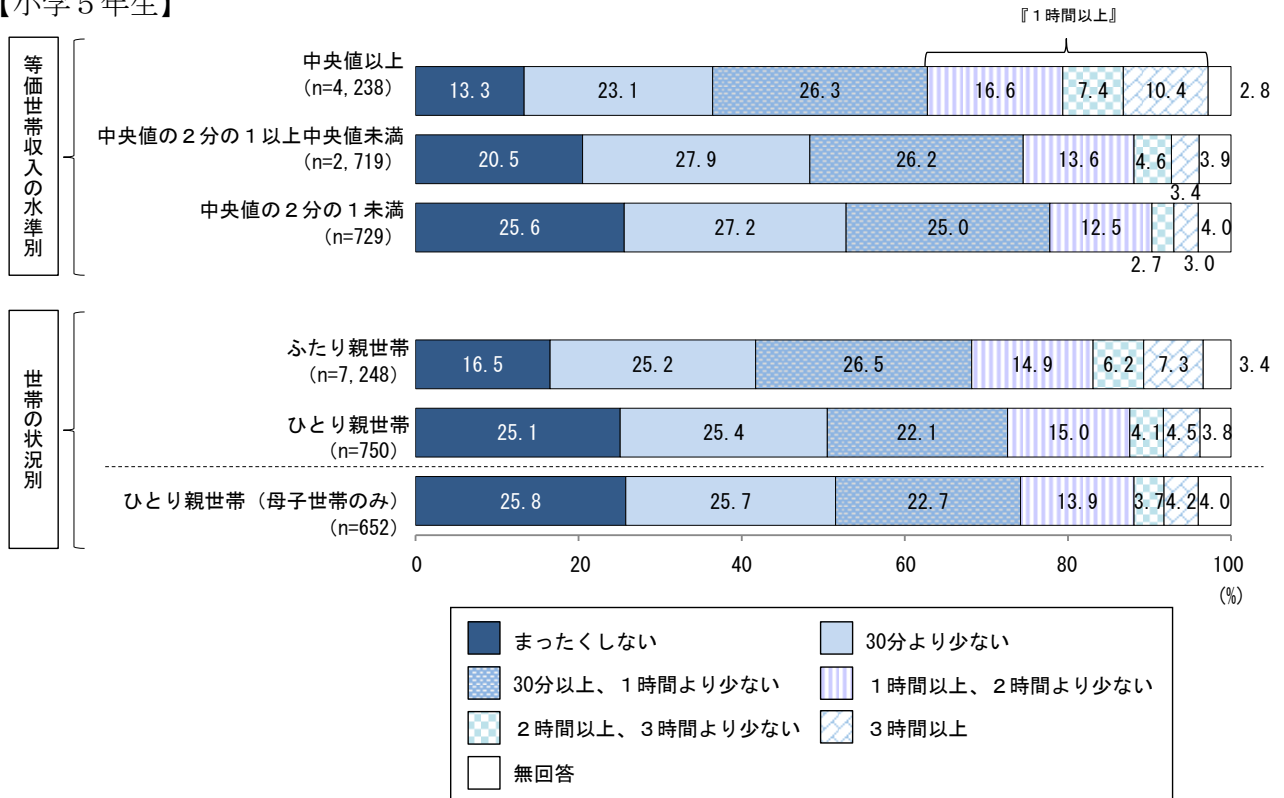


【中学2年生】

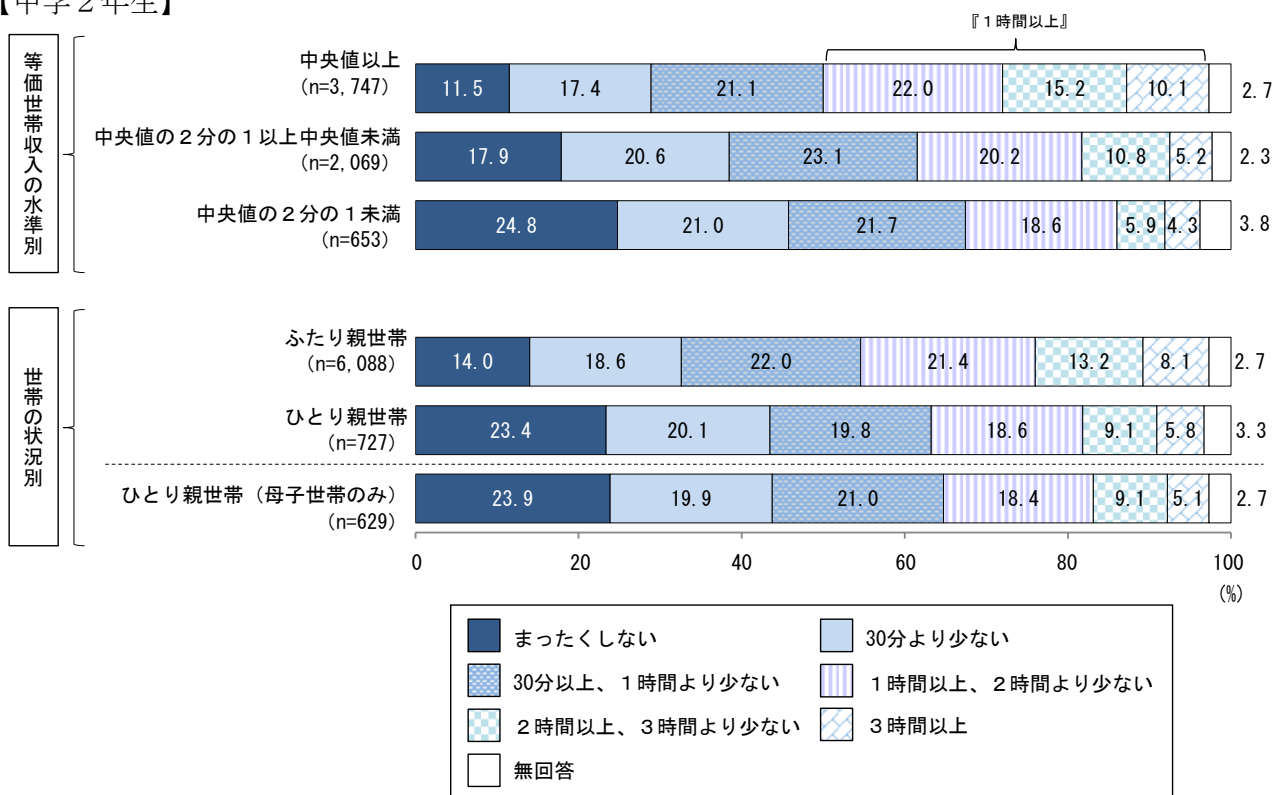


<グラフ⑩ 学校の授業以外での1日当たりの勉強時間 =学校がない日=>

【小学5年生】

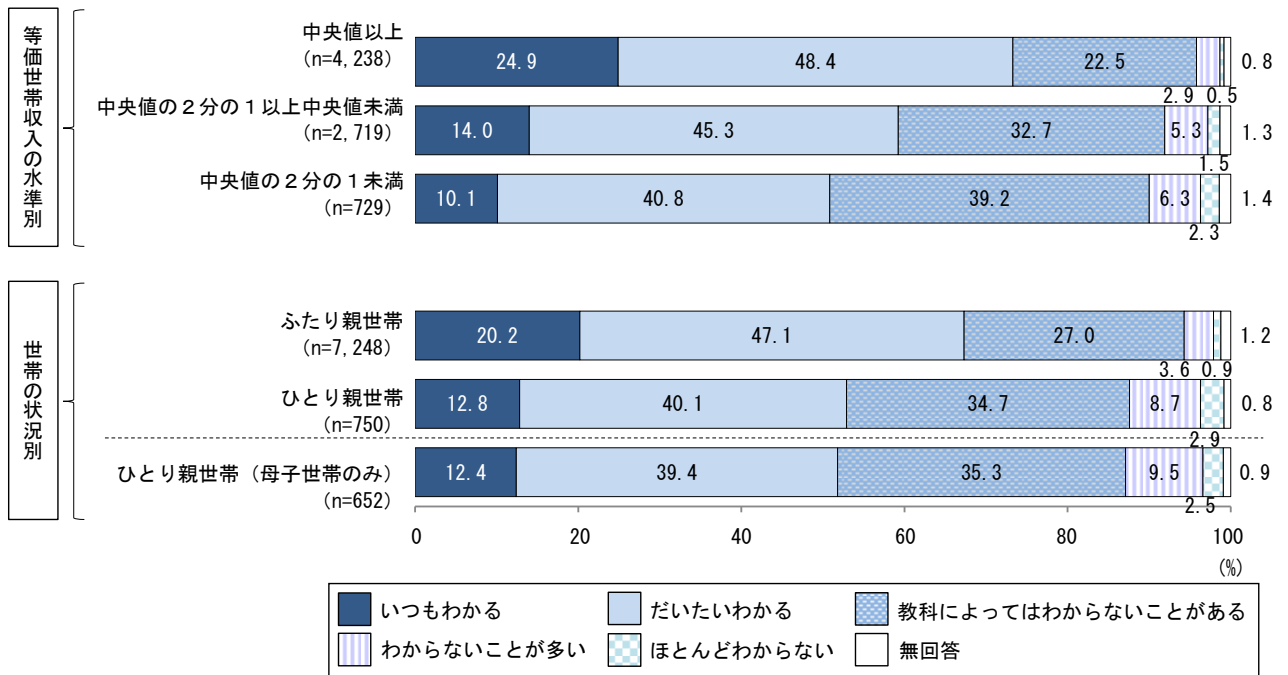


【中学2年生】

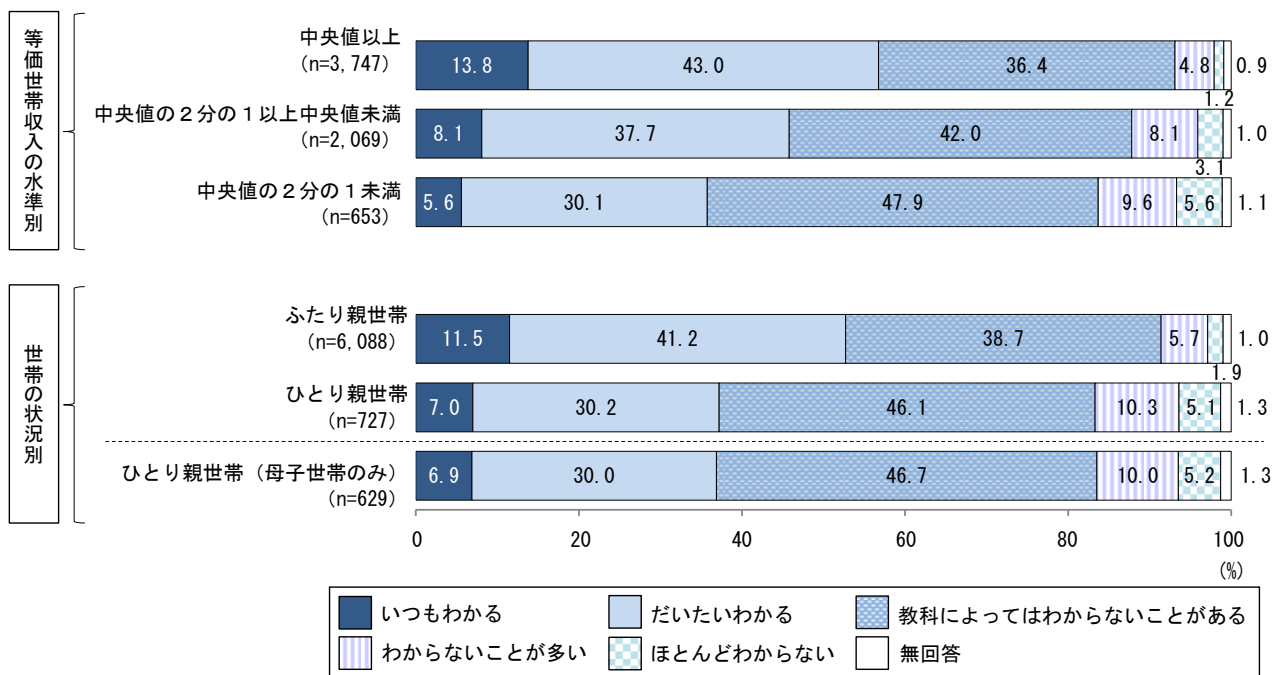


<グラフ⑪ 学校の授業の理解度>

【小学5年生】

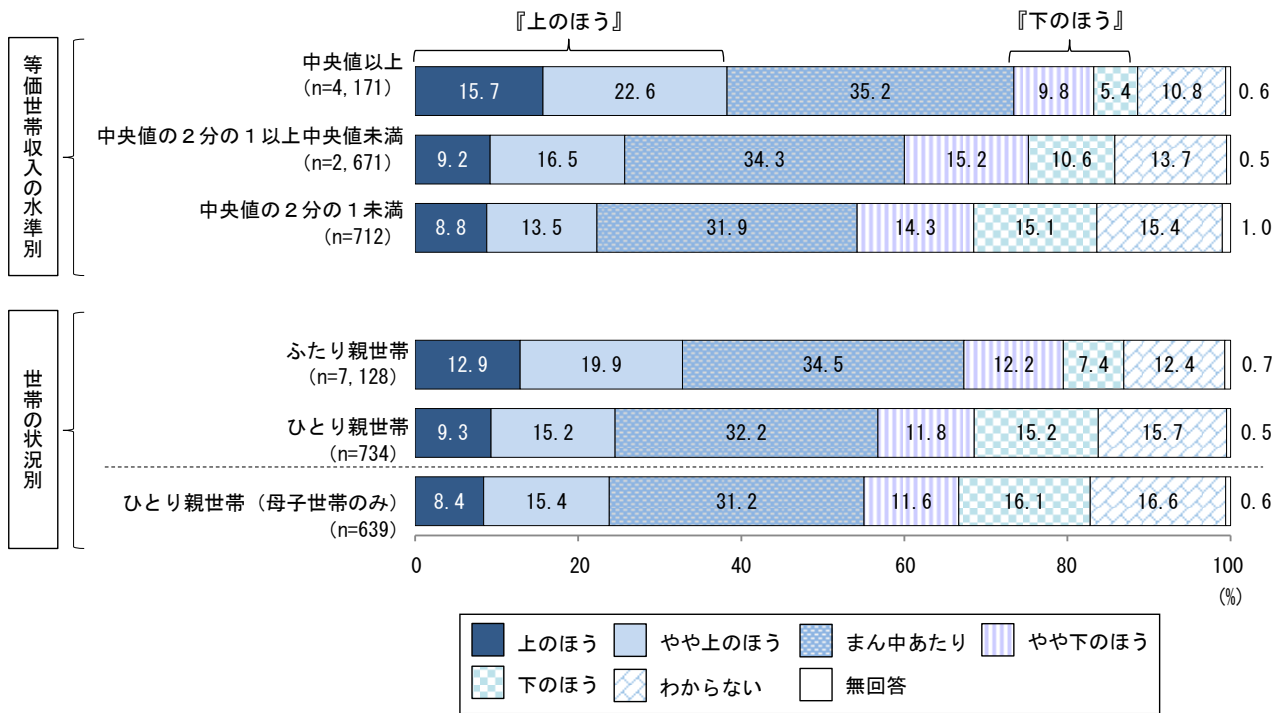


【中学2年生】

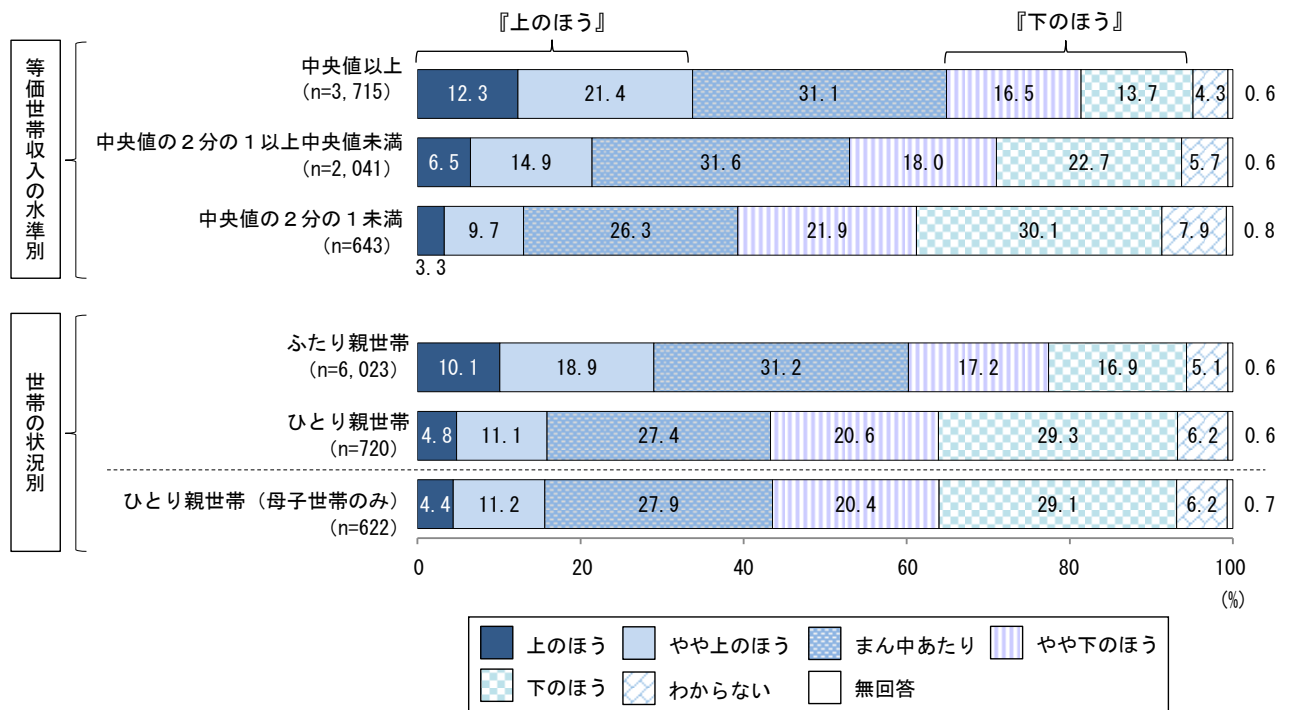


<グラフ⑫ 自分自身によるクラスの中での成績評価>

【小学5年生】



【中学2年生】

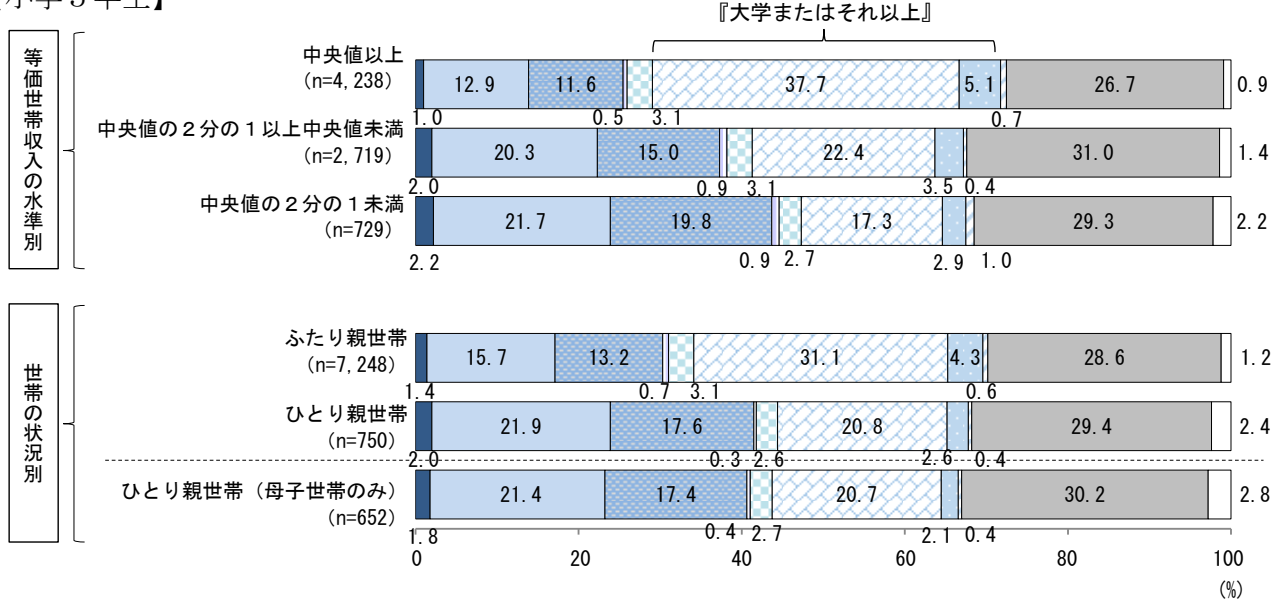


(2) 進学希望

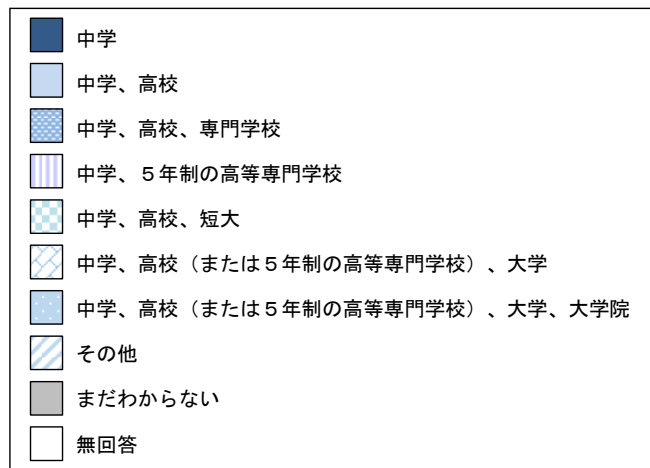
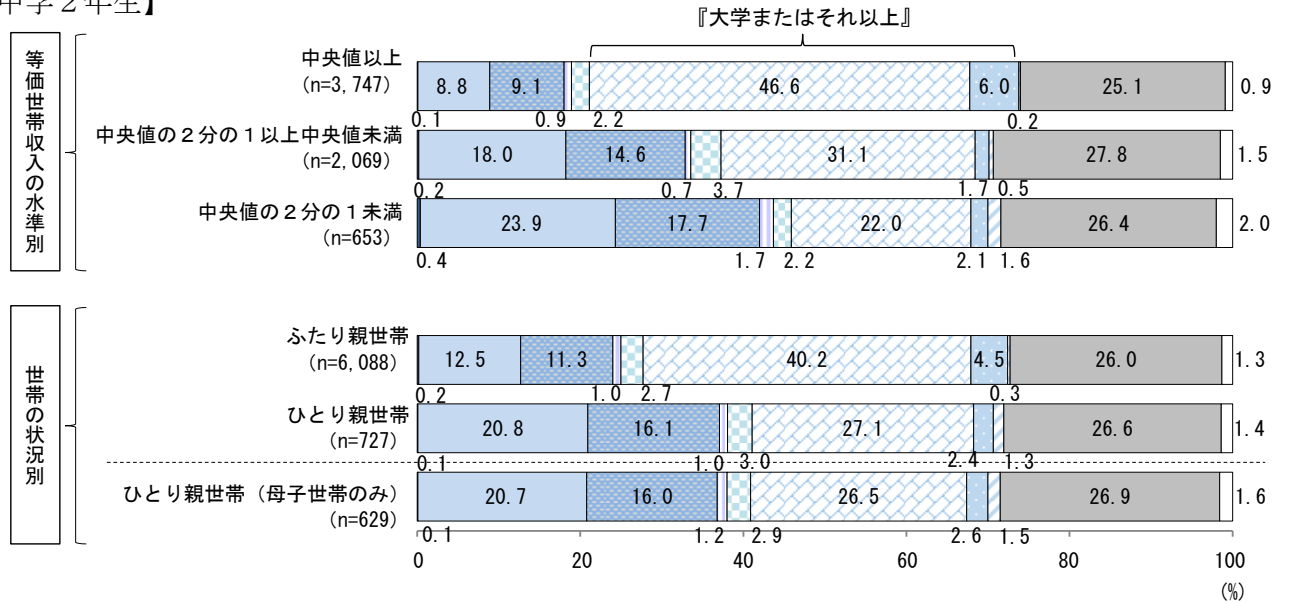
○ 将来、大学またはそれ以上の段階まで進学を希望する子供の割合は、等価世帯収入の水準が低い世帯ほど少ない。(グラフ⑬)

<グラフ⑬ 進学希望>

【小学5年生】



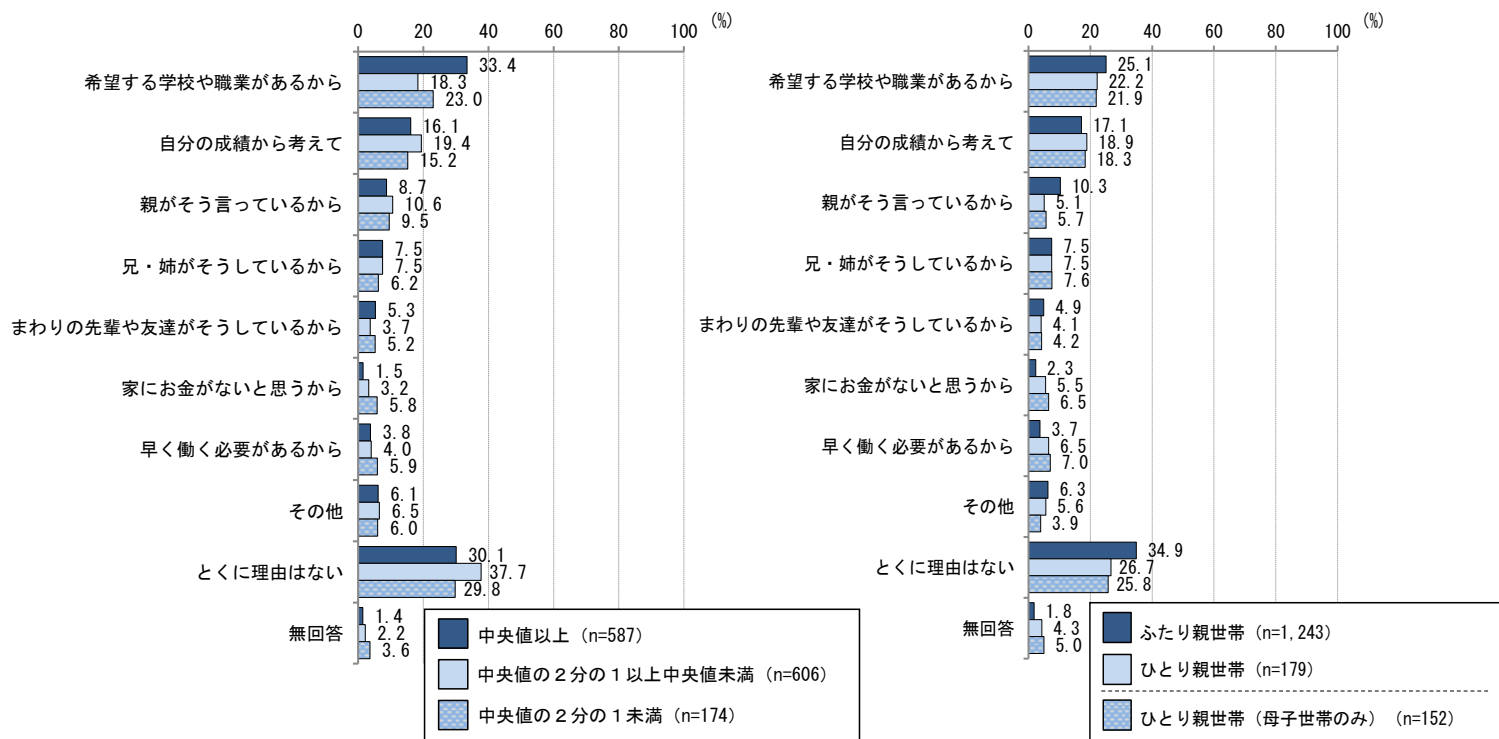
【中学2年生】



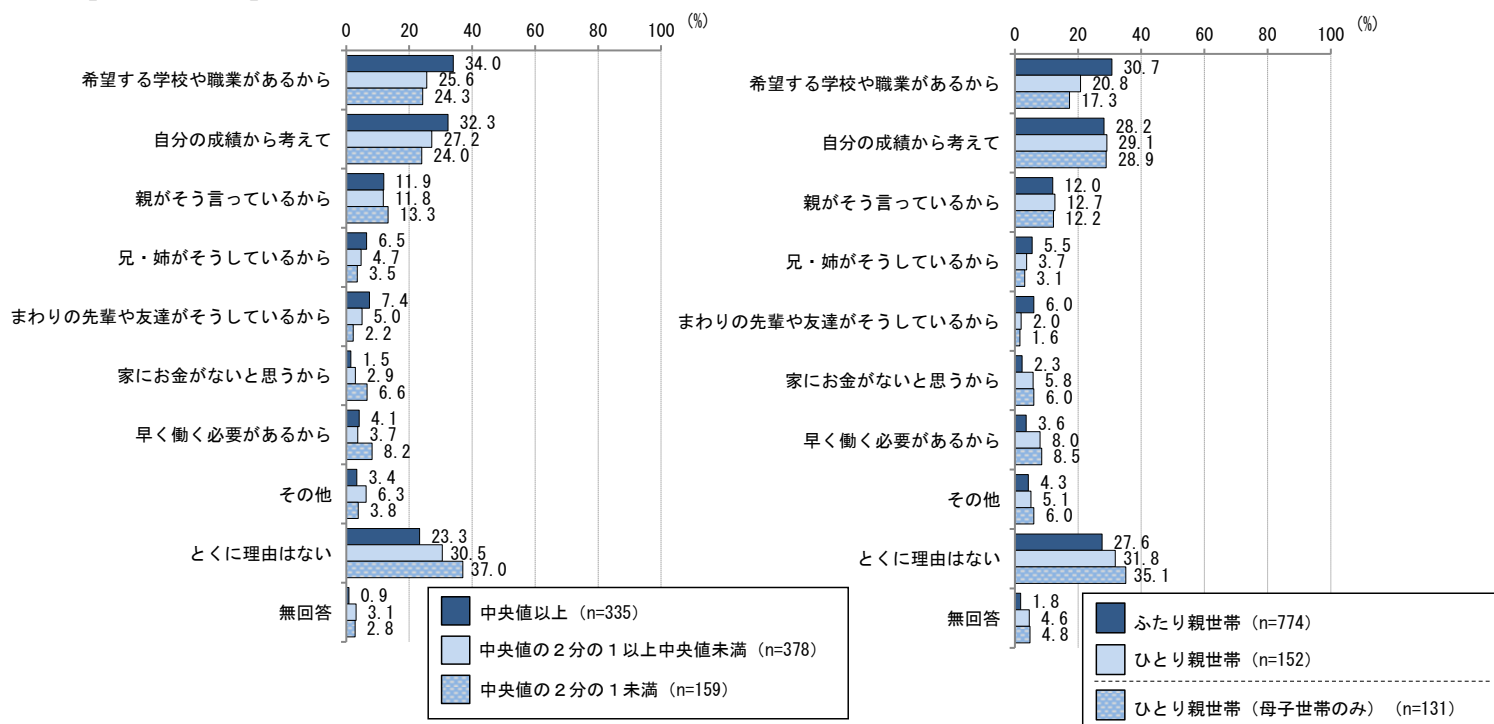
○ 進学先として『高校まで』と考える理由は、保護者の回答と異なり、『家にお金がないと思うから』の割合は低く、『とくに理由はない』と回答する割合が高くなっている。(グラフ⑭)

<グラフ⑭ 進学希望 =高校までと考える理由=>

【小学5年生】



【中学2年生】

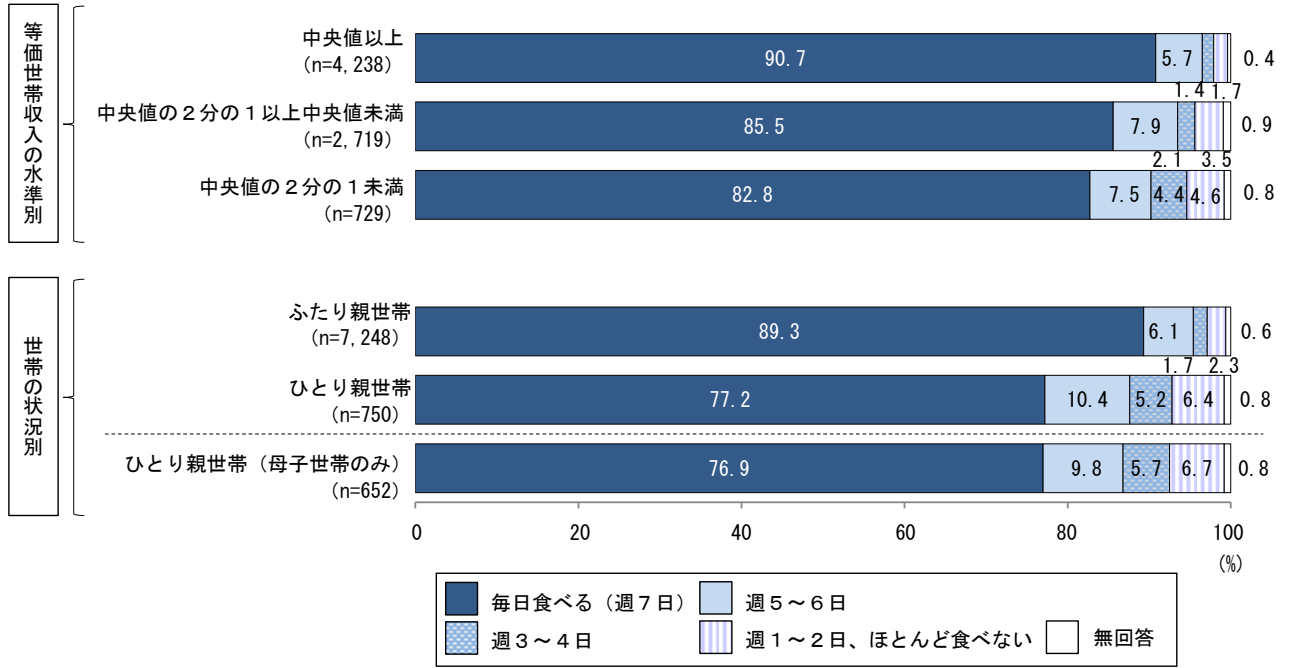


(3) 生活習慣

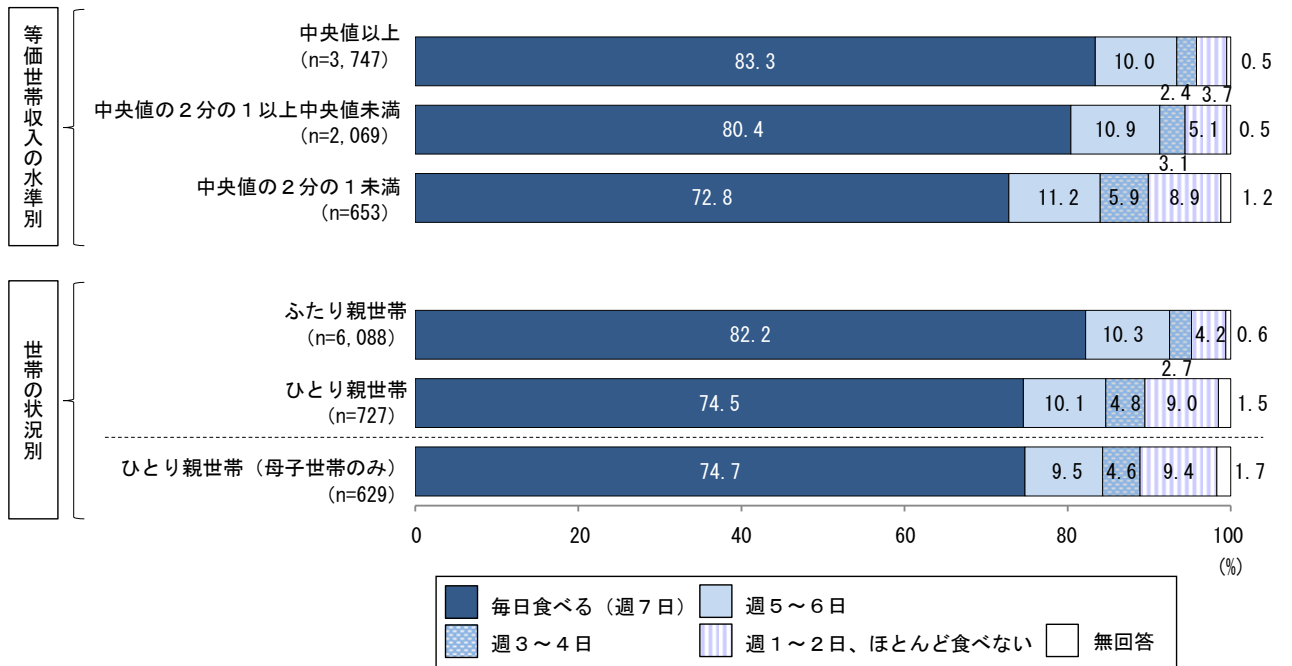
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、毎日朝食を食べている割合や平日同じ時間に寝ている割合が低くなっている。(グラフ⑮、⑯)

<グラフ⑮ 朝食をとる頻度>

【小学5年生】

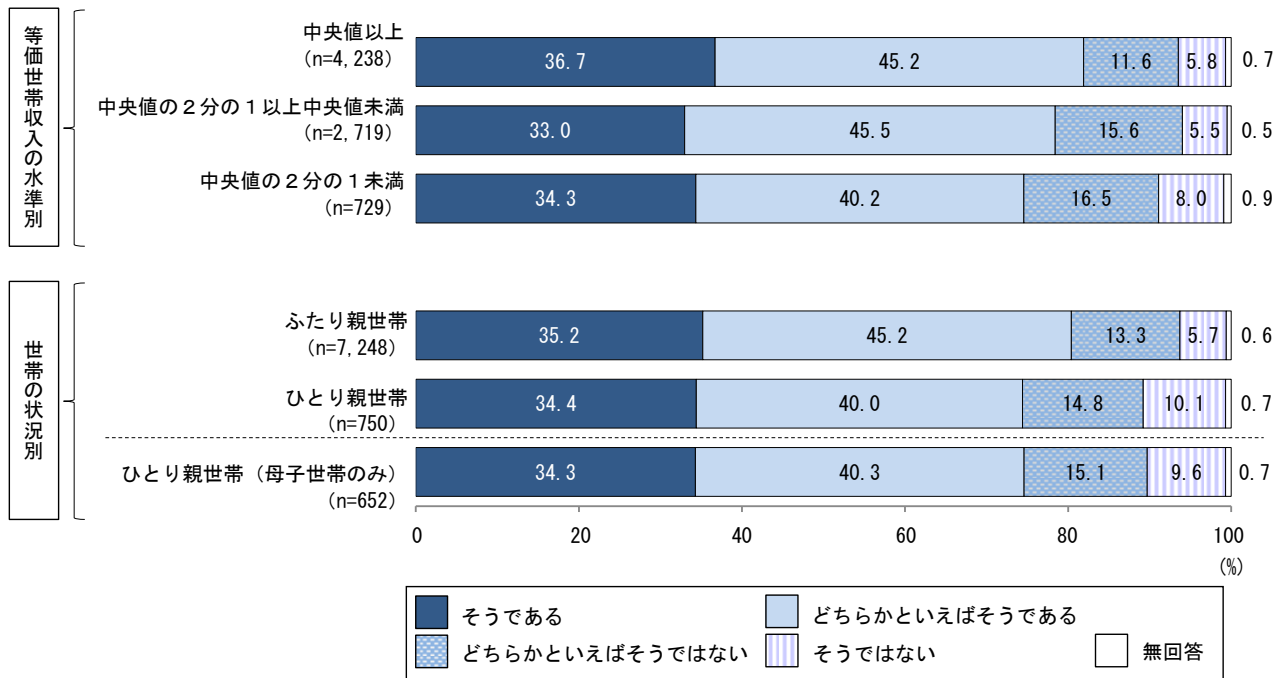


【中学2年生】

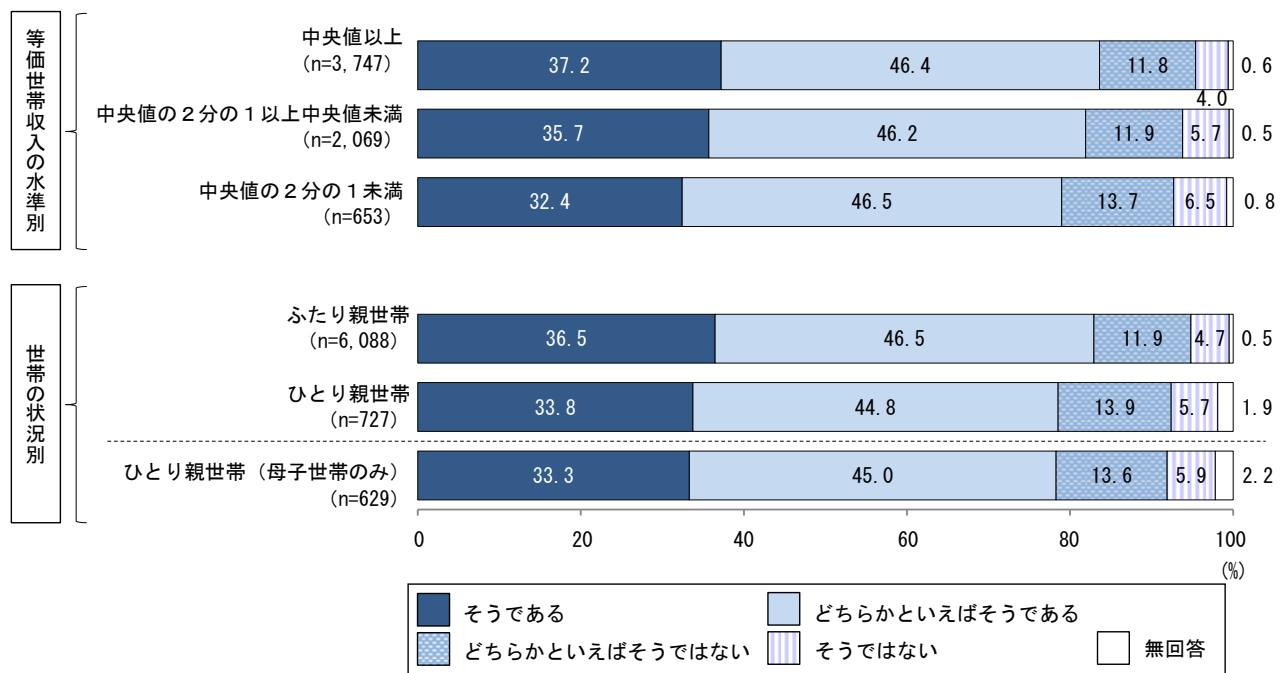


<グラフ⑯ 平日の就寝時間（平日にほぼ同じ時間に寝ているか）>

【小学5年生】



【中学2年生】



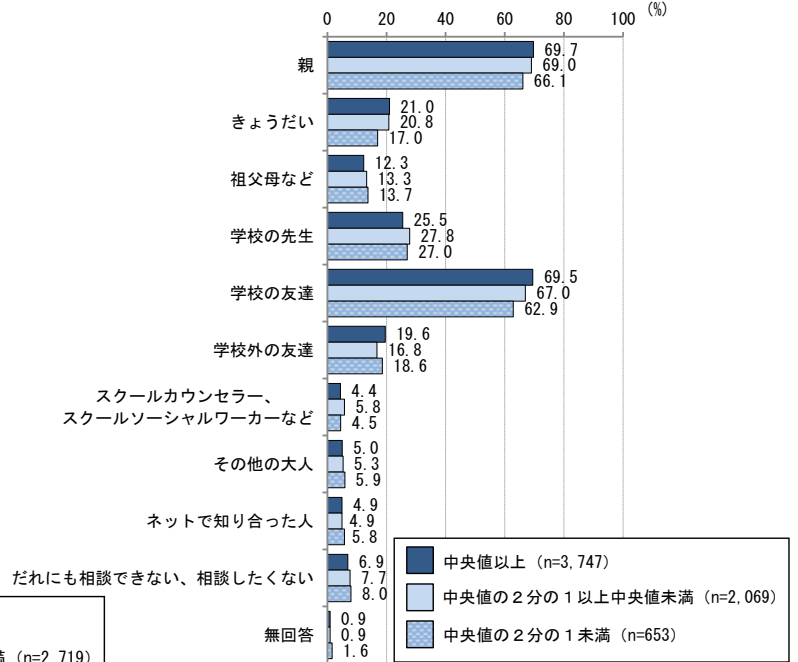
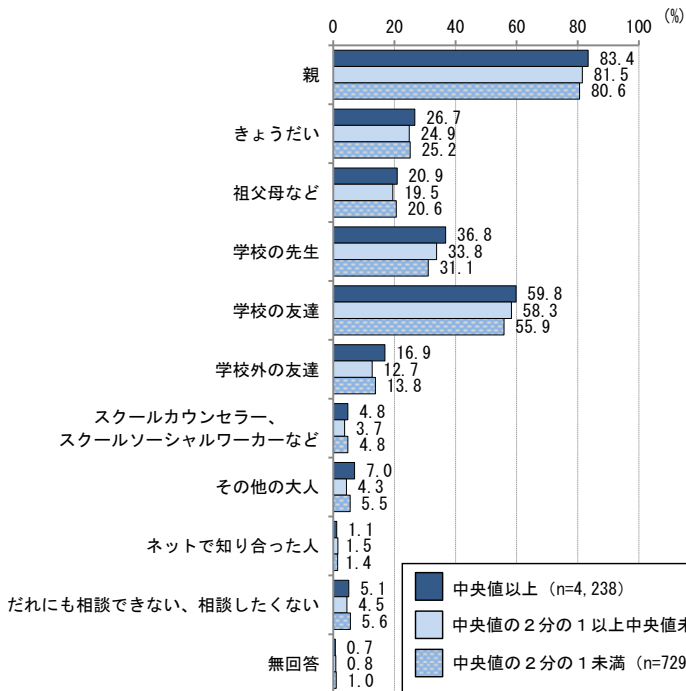
(4) 悩み事の相談先

○ 『だれにも相談できない、相談したくない』との回答の割合は、収入の水準による大きな差はみられないが（グラフ⑰）、相談できる人がいない子供は、相談できる人がいる子供に比べて、最近の生活への満足度が低くなっている。（グラフ⑱）

<グラフ⑰ 困っていることや悩みごとがあるとき、相談できると思う人>

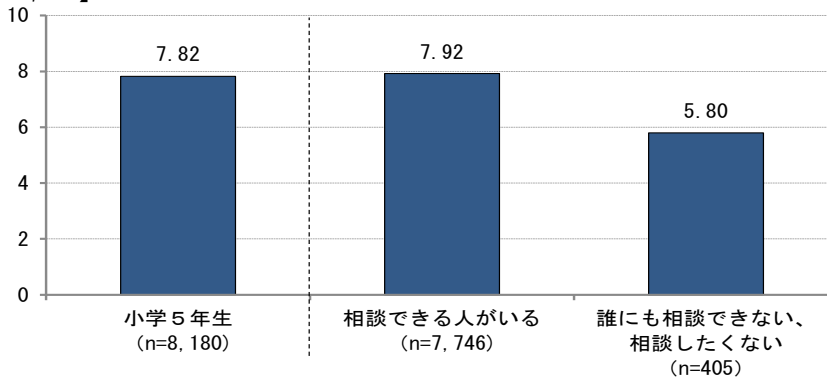
【小学5年生】

【中学2年生】

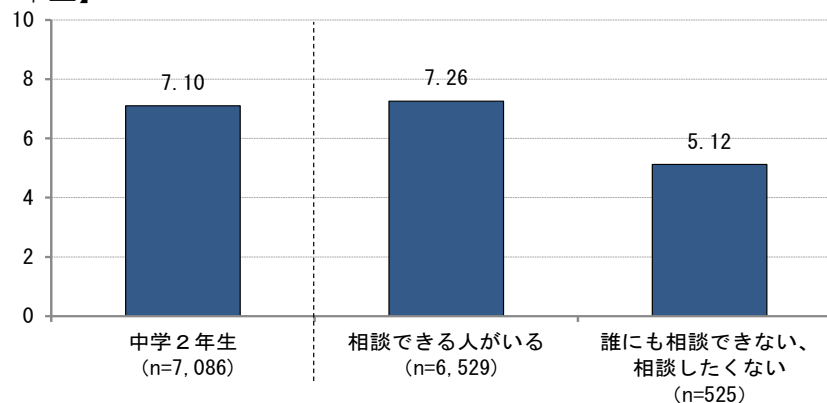


<グラフ⑱ 困っていることや悩み事がある人の有無別の生活満足度>

【小学5年生】



【中学2年生】



(5) 心理的な状態

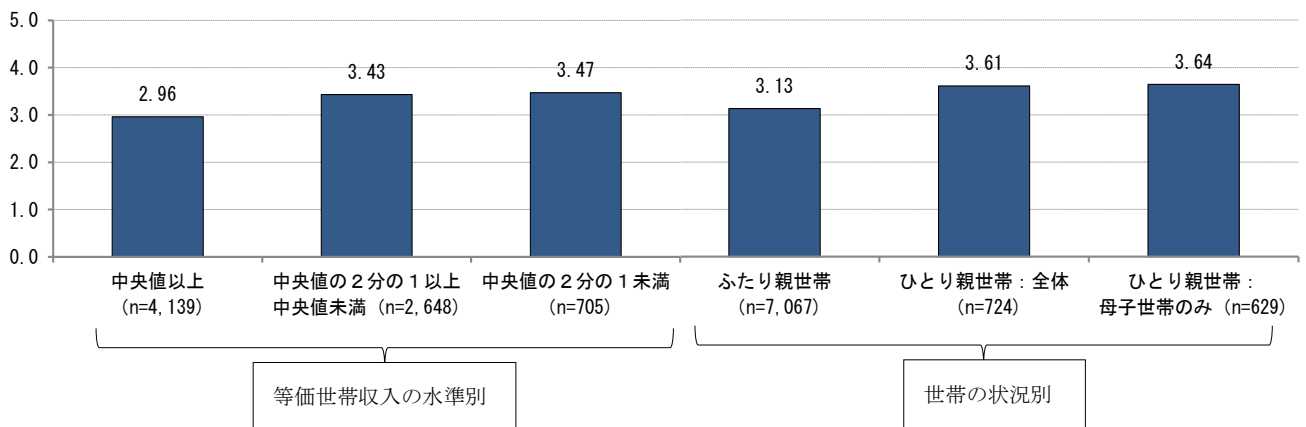
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「情緒の問題」に関するスコア（値が高いほど課題があると考えられる）が高く、「逆境体験」を経験している割合も高くなっている。（グラフ⑱、⑳）

<グラフ⑱ 子供の心理的な状態 =情緒の問題=>

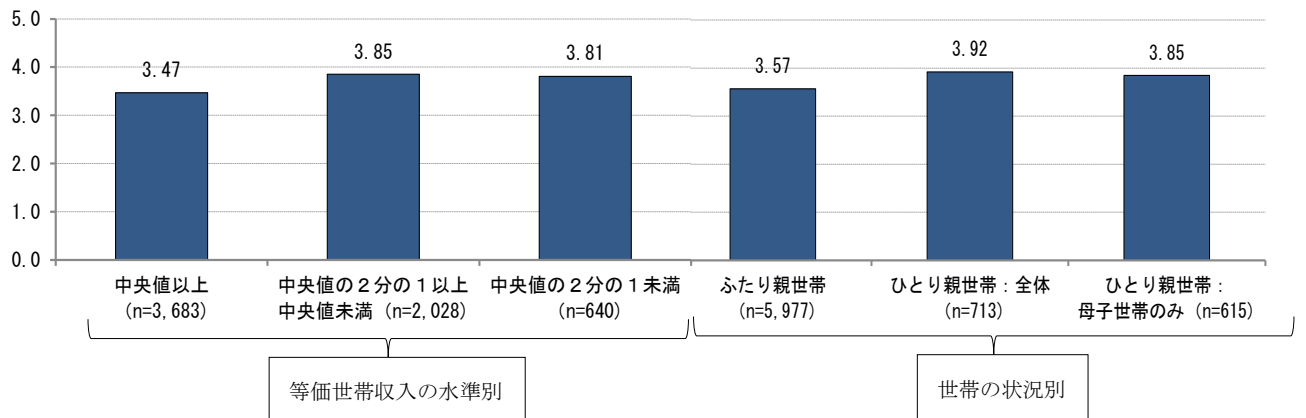
本調査では「子供の心理的な状態（情緒の問題）」に関して、次の5つの項目の結果（「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」）を足し合わせて0～10点のスコアを算出した。得点が高いほど、課題があると考えられる

- b. 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- e. 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- h. 私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- j. 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- o. 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

【小学5年生】

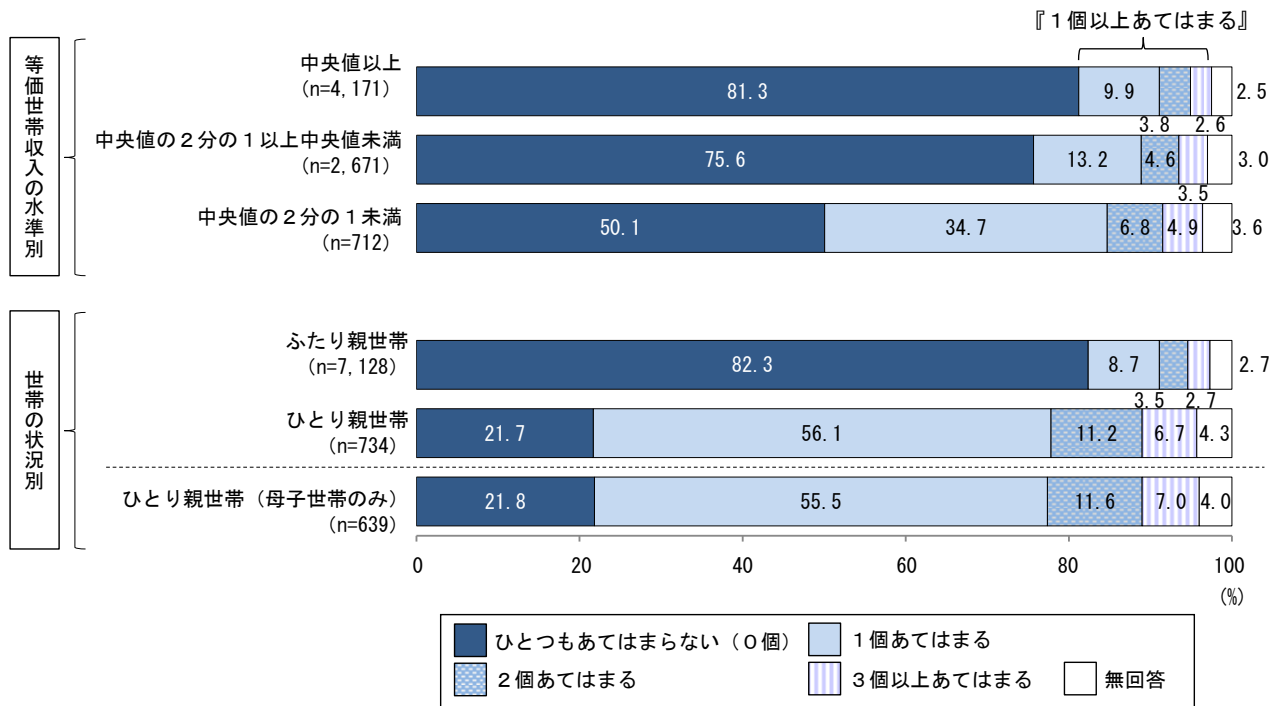


【中学2年生】

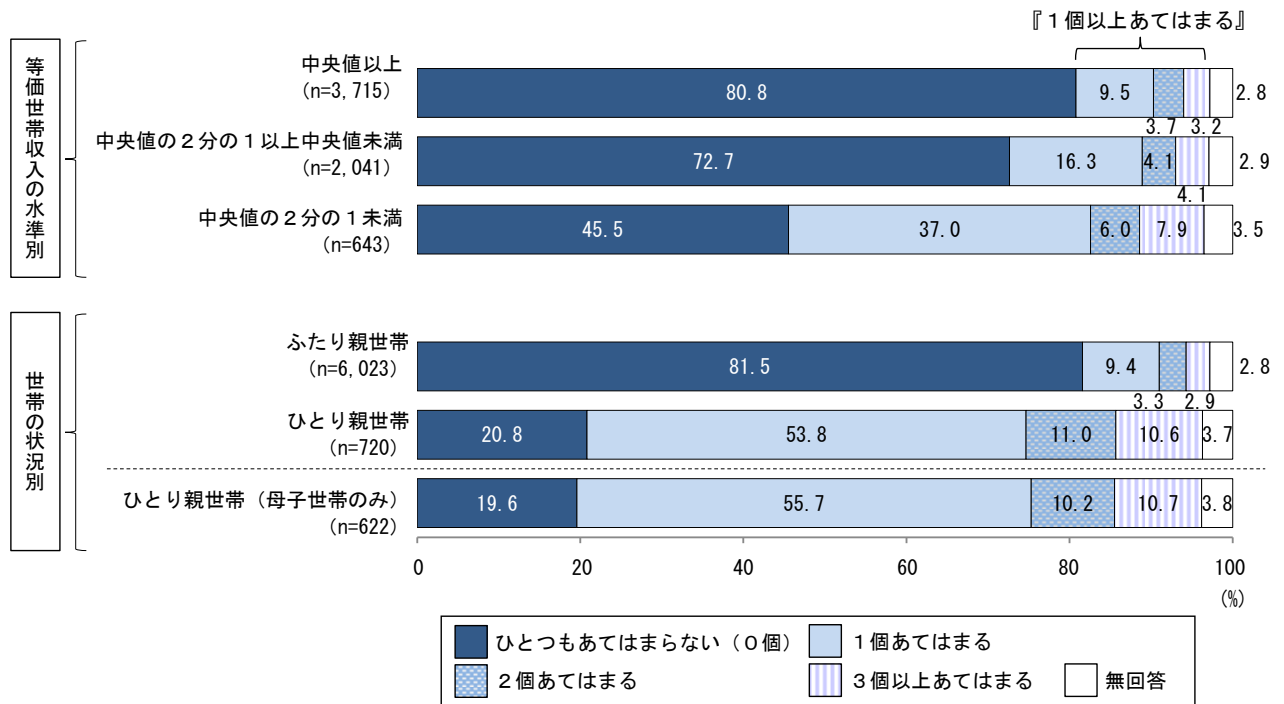


<グラフ⑳ 逆境体験>

【小学5年生】



【中学2年生】

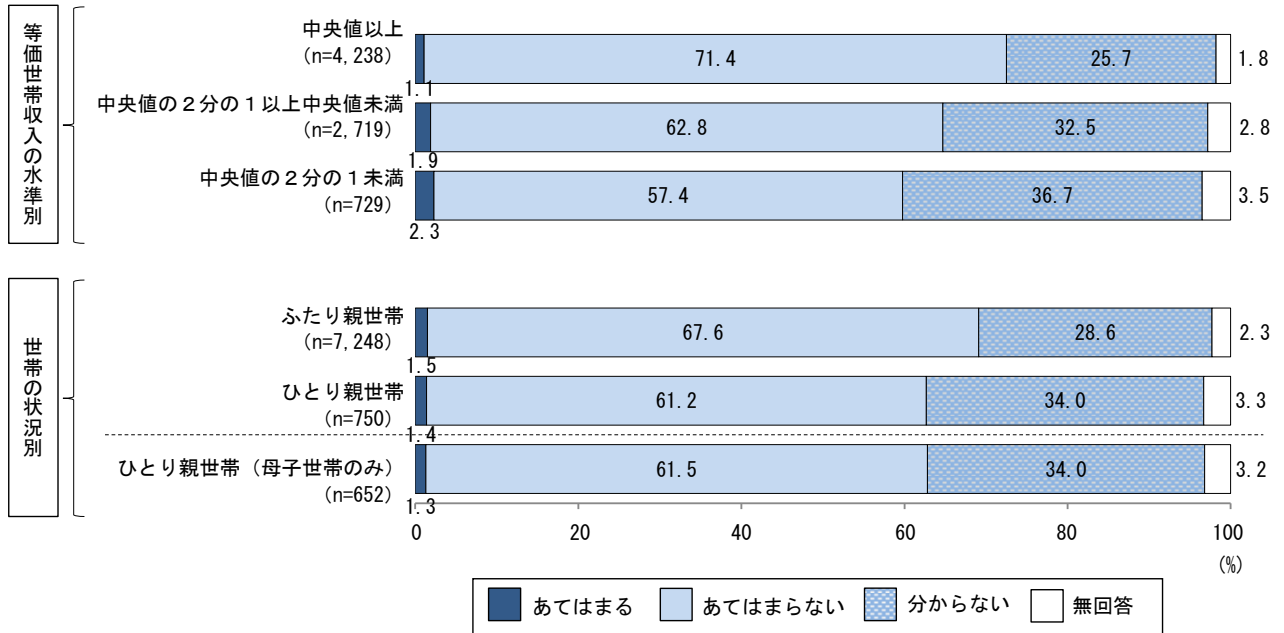


(6) ヤングケアラーの実態

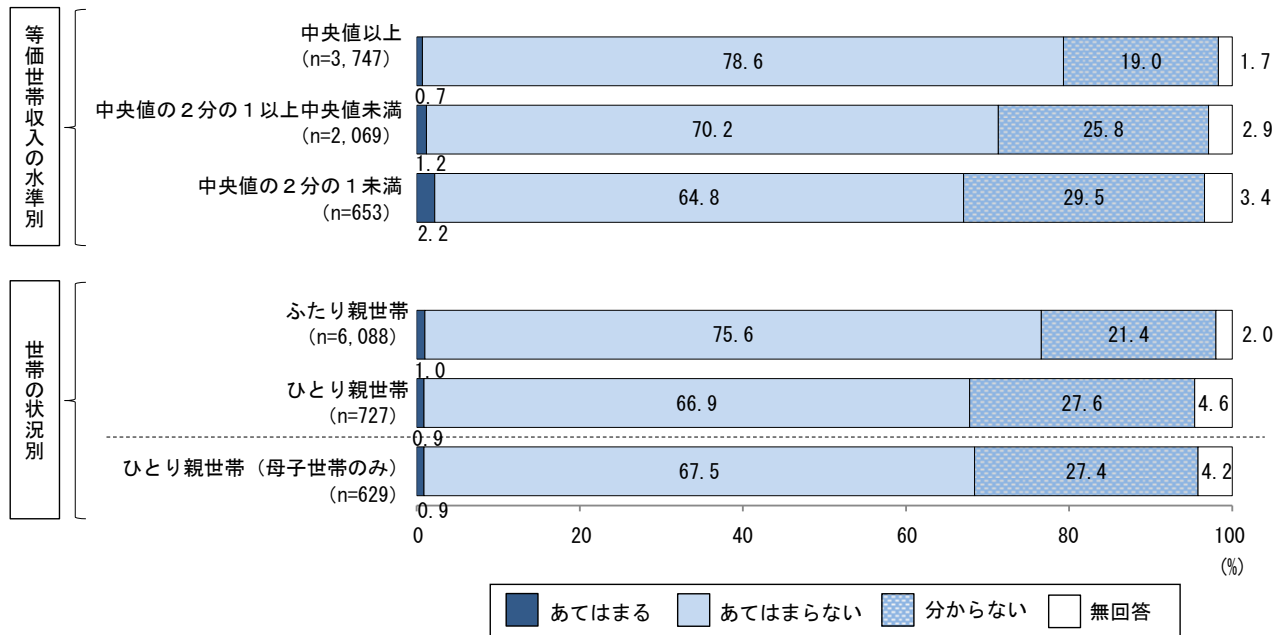
- ヤングケアラーにあてはまると思うと回答した子供は、収入の水準や世帯の状況に関わらず 1～2%程度となっているが、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、『分からない』との回答の割合が高くなっている。(グラフ⑳)

<グラフ⑳ 自分がヤングケアラーにあてはまると思うか>

【小学5年生】



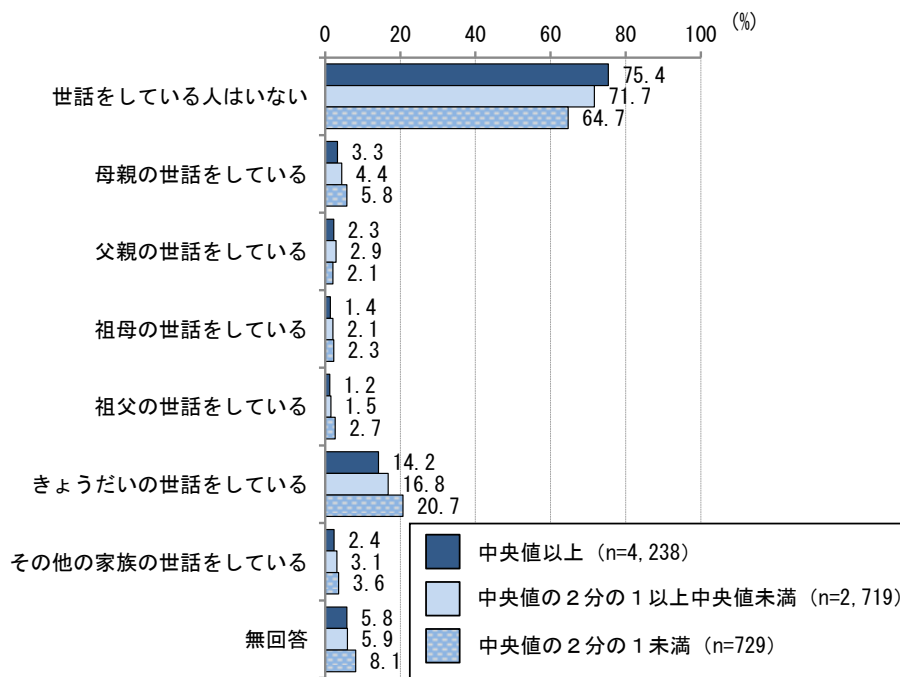
【中学2年生】



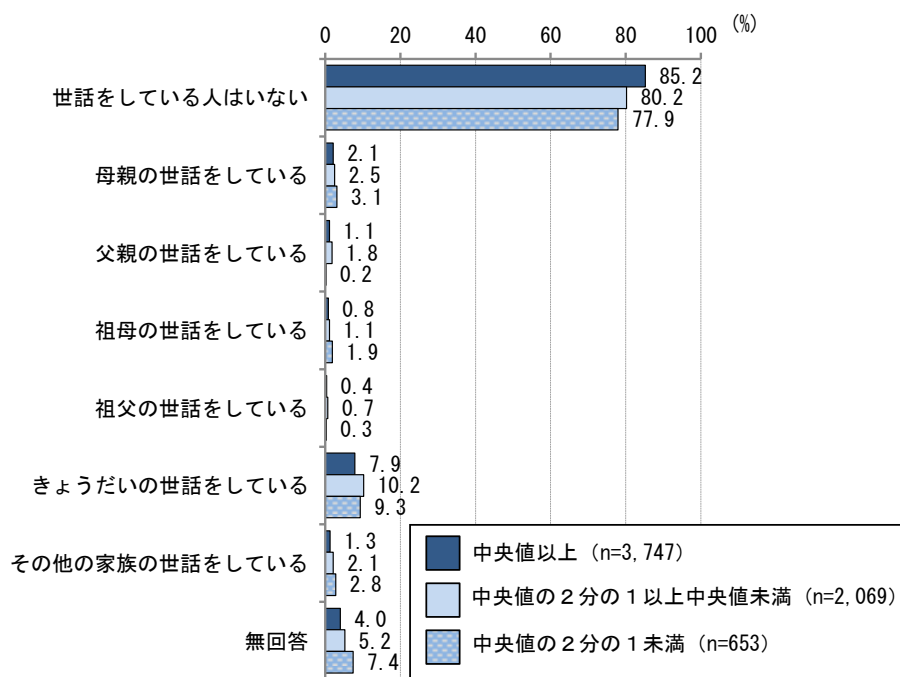
○ また、家族の世話の状況について、収入の水準が低い世帯では、『世話をしている人はいない』の割合が低くなっている。「世話をしている人」の対象としては、『きょうだいの世話をしている』と回答した割合が高い傾向がみられる。(グラフ㉒)

<グラフ㉒ 世話をしている人の有無>

【小学5年生】



【中学2年生】



5 新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症拡大前後の影響については、保護者では、小学5年生世帯、中学2年生世帯ともに、感染症拡大前と拡大していた期間を比べ「生活に必要な支出の変化」が『増えた』と回答し、かつ拡大期間以降、現在までにも『増えた』と回答した割合が高くなっている。(グラフ②)

<グラフ② 新型コロナウイルス感染症の影響 =保護者の状況=>

※保護者票の問26（新型コロナウイルス感染症の拡大する前と拡大していた期間の生活の変化）と問27（新型コロナウイルス感染症の拡大していた期間と現在との生活の変化）のクロス集計

【小学5年生の保護者】

b)生活に必要な支出の変化		問27			
		増えた	減った	変わらない	無回答
問26	増えた	44.3	0.9	7.1	0.4
	減った	2.6	1.6	1.3	0.1
	変わらない	5.0	0.3	34.4	0.2
	無回答	0.2	-	0.1	1.7

【中学2年生の保護者】

b)生活に必要な支出の変化		問27			
		増えた	減った	変わらない	無回答
問26	増えた	44.6	0.5	7.2	0.3
	減った	2.1	1.6	1.2	0.1
	変わらない	5.2	0.2	32.4	0.1
	無回答	0.1	0.0	0.1	4.2

○ 子供への影響では、いずれの質問でも感染症拡大前、拡大期間、現在を通じて、『変わらない』と回答した割合が最も高いが、例えば「家族で外食する回数」については、感染症拡大前と拡大期間を比べると、『減った』と回答した割合が高く、このうち拡大期間と現在を比べると『増えた』と回答した割合が最も高くなっている一方、『減った』『変わらない』との回答も一定程度あった。「家族で家で過ごす時間」については、感染症拡大前と拡大期間を比べると、『増えた』と回答した割合が高く、このうち拡大期間と現在を比べると『増えた』と回答した割合が最も高くなっている。(グラフ⑭)

＜グラフ⑭ 新型コロナウイルス感染症の影響 =子供の状況=>

※保護者票の問16（新型コロナウイルス感染症の拡大する前と拡大していた期間の生活の変化）と問17（新型コロナウイルス感染症の拡大していた期間と現在との生活の変化）のクロス集計

【小学5年生】

n=8,273

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
a) 学校の授業以外で勉強する時間	問16 増えた	16.5	2.4	6.0	0.2
	減った	3.9	3.3	3.1	0.1
	変わらない	7.7	2.7	52.3	0.5
	無回答	0.2	0.0	0.3	0.8
b) 学校の授業がわからないと感じること	問16 増えた	11.3	2.6	3.7	0.3
	減った	1.1	12.6	5.4	0.2
	変わらない	2.9	5.2	52.9	0.5
	無回答	0.1	0.2	0.4	0.8
c) 地域のクラブ活動や学校の部(クラブ)活動で活動する回数	問16 増えた	11.7	1.1	3.3	0.2
	減った	14.9	8.6	6.7	0.4
	変わらない	5.2	2.1	43.5	0.5
	無回答	0.2	0.1	0.5	1.0

(%)

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
d) 食事を抜く回数	問16 増えた	2.1	0.7	1.1	0.0
	減った	0.4	4.3	2.0	0.1
	変わらない	1.1	3.3	82.4	0.9
	無回答	0.0	0.2	0.6	0.8
e) 夜遅くまで起きている回数	問16 増えた	20.7	2.4	5.9	0.4
	減った	1.0	6.0	2.7	0.2
	変わらない	4.0	1.8	52.7	0.6
	無回答	0.2	0.1	0.4	0.8
f) 親以外の大人や友達と話をすること	問16 増えた	22.5	2.1	6.2	0.5
	減った	11.8	4.8	4.0	0.2
	変わらない	8.4	1.8	35.5	0.3
	無回答	0.5	0.1	0.3	0.9

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
g) 親以外の大人や友達の素顔を見ること					
問16	増えた	15.0	1.8	2.9	0.3
	減った	24.1	10.2	6.0	0.4
	変わらない	5.1	2.4	29.6	0.4
	無回答	0.3	0.2	0.4	0.8
h) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと					
問16	増えた	13.2	5.1	5.5	0.3
	減った	1.0	10.1	4.8	0.2
	変わらない	2.6	4.9	50.0	0.6
	無回答	0.2	0.2	0.3	0.9
i) 家族で外食する回数					
問16	増えた	10.3	1.3	2.4	0.3
	減った	23.3	16.2	9.6	0.4
	変わらない	5.0	2.9	26.6	0.4
	無回答	0.2	0.1	0.2	0.8
j) 家族で旅行する回数					
問16	増えた	6.6	0.8	1.2	0.1
	減った	15.7	19.0	14.8	0.5
	変わらない	3.2	2.6	33.6	0.4
	無回答	0.2	0.2	0.3	0.9

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
k) 野外レジャーに行く回数					
問16	増えた	7.9	1.3	2.4	0.2
	減った	12.0	15.6	12.2	0.3
	変わらない	4.4	2.9	38.9	0.5
	無回答	0.1	0.0	0.3	1.0
l) 屋内施設に行く回数					
問16	増えた	9.9	1.1	2.4	0.2
	減った	16.2	15.2	9.8	0.5
	変わらない	4.5	2.6	35.6	0.4
	無回答	0.2	0.1	0.3	0.9
m) 家族で家で過ごす時間					
問16	増えた	27.6	10.8	17.2	0.5
	減った	1.1	4.0	1.4	0.1
	変わらない	3.6	1.5	30.4	0.3
	無回答	0.3	0.1	0.4	0.8

【中学2年生】

n=7,164

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
a) 学校の授業以外で勉強する時間					
問16	増えた	18.7	2.9	7.5	0.3
	減った	2.6	4.5	3.2	0.1
	変わらない	8.9	2.7	46.2	0.5
	無回答	0.2	0.1	0.4	1.2
b) 学校の授業がわからないと感じること					
問16	増えた	19.4	2.9	5.7	0.5
	減った	1.1	4.7	2.4	0.1
	変わらない	4.7	2.9	53.2	0.4
	無回答	0.3	0.1	0.4	1.3
c) 地域のクラブ活動や学校の部(クラブ)活動で活動する回数					
問16	増えた	17.0	1.2	3.7	0.2
	減った	16.1	10.4	6.9	0.3
	変わらない	6.7	1.6	33.3	0.4
	無回答	0.3	0.3	0.3	1.3
d) 食事を抜く回数					
問16	増えた	3.9	0.9	1.3	0.1
	減った	0.5	2.6	1.7	0.1
	変わらない	1.4	2.2	82.5	0.9
	無回答	0.1	0.0	0.5	1.3

(%)

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
e) 夜遅くまで起きている回数					
問16	増えた	28.2	2.9	10.3	0.5
	減った	0.6	2.5	1.4	0.2
	変わらない	4.3	1.0	45.8	0.4
	無回答	0.3	0.1	0.3	1.2
f) 親以外の大人や友達と話すこと					
問16	増えた	20.1	1.2	6.0	0.4
	減った	11.0	5.3	4.7	0.3
	変わらない	7.5	1.9	39.1	0.5
	無回答	0.4	0.2	0.4	1.3
g) 親以外の大人や友達の素顔を見ること					
問16	増えた	11.3	1.0	2.6	0.3
	減った	24.7	14.7	9.5	0.5
	変わらない	4.0	1.5	27.7	0.3
	無回答	0.5	0.2	0.3	1.2
h) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと					
問16	増えた	18.7	3.3	8.3	0.4
	減った	0.9	4.2	3.0	0.2
	変わらない	2.6	3.1	53.0	0.5
	無回答	0.3	0.1	0.3	1.3

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
i) 家族で外食する回数					
問16	増えた	5.5	0.6	1.5	0.2
	減った	20.1	18.5	13.9	0.4
	変わらない	4.4	2.2	30.3	0.4
	無回答	0.2	0.3	0.3	1.2
j) 家族で旅行する回数					
問16	増えた	3.2	0.5	1.0	0.1
	減った	13.3	21.4	19.9	0.5
	変わらない	2.3	1.8	33.6	0.4
	無回答	0.1	0.3	0.3	1.2
k) 野外レジャーに行く回数					
問16	増えた	4.6	0.6	1.4	0.1
	減った	10.2	18.5	17.8	0.5
	変わらない	2.9	2.0	38.9	0.4
	無回答	0.1	0.3	0.3	1.3

		問17			
		増えた	減った	変わらない	無回答
l) 屋内施設に行く回数					
問16	増えた	9.1	0.9	2.4	0.1
	減った	14.3	16.1	11.9	0.4
	変わらない	4.3	2.2	35.9	0.4
	無回答	0.2	0.2	0.4	1.3
m) 家族で家で過ごす時間					
問16	増えた	24.0	10.4	20.4	0.3
	減った	0.9	5.2	1.6	0.1
	変わらない	2.4	1.8	30.3	0.5
	無回答	0.3	0.2	0.3	1.2

6 支援の利用状況や効果等

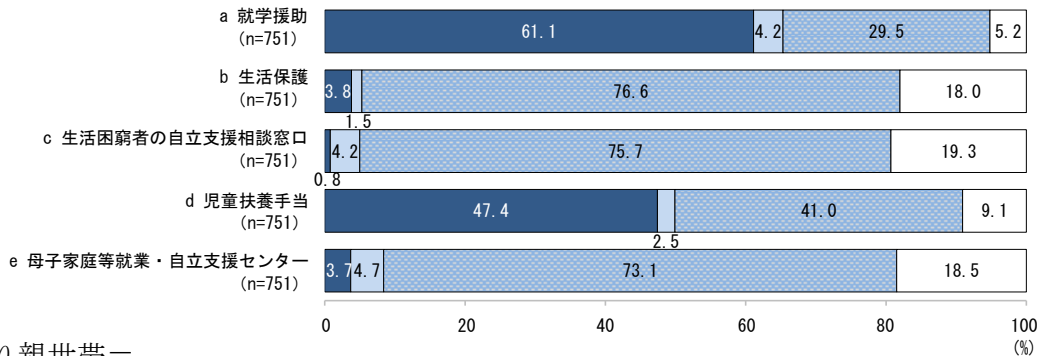
(1) 保護者の支援制度

- 等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯では、「就学援助」や「児童扶養手当」の利用は5～6割前後となっているが、その他の支援の利用は1割未満となっている。(グラフ②⑤)

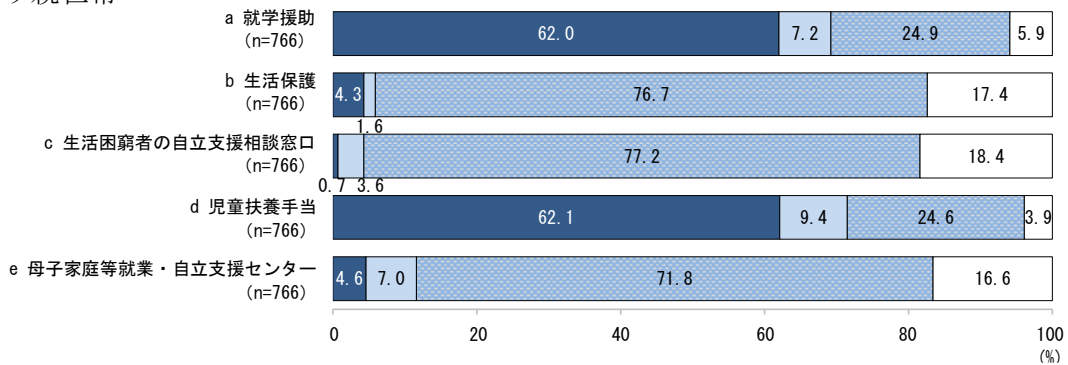
<グラフ②⑤ 支援の利用状況>

【小学5年生の保護者】

＝等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯＝

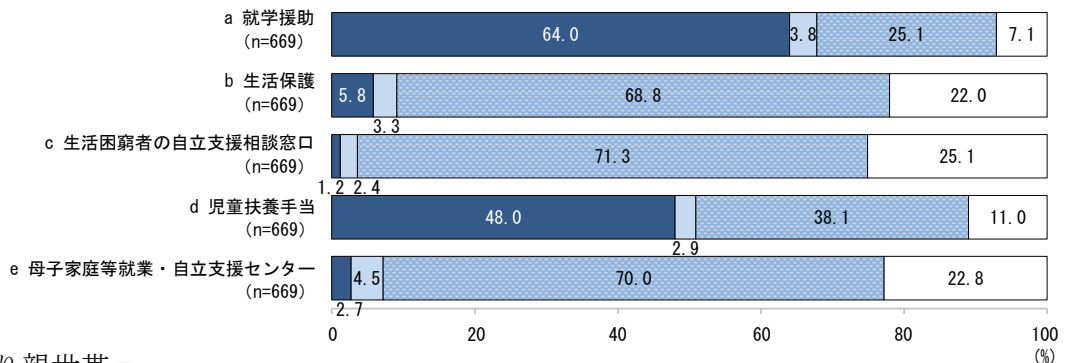


＝ひとり親世帯＝

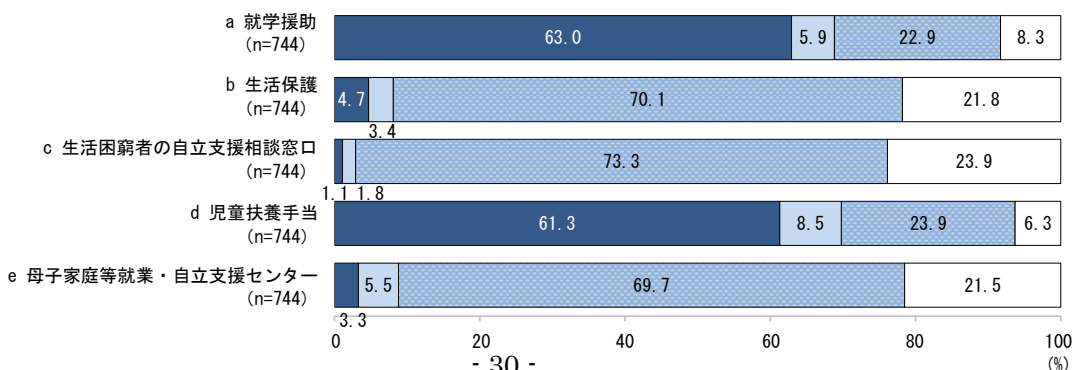


【中学2年生の保護者】

＝等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯＝



＝ひとり親世帯＝

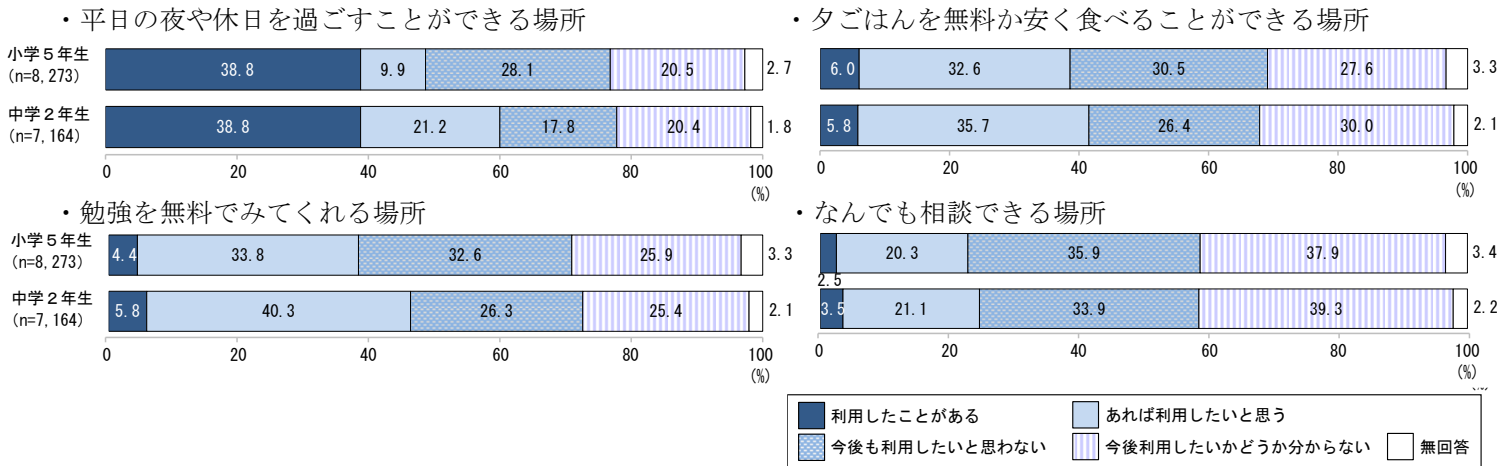


(2) 子供の居場所

○ 「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」は約4割の子供が利用しており、その他の居場所を利用して居る子供は全体の1割未満であるが、いずれの居場所も「あれば利用したいと思う」は2～4割となっている。(グラフ②⑥)

利用による変化として、小学5年生では約8割、中学2年生では約6割が『友だちが増えた』『勉強する時間が増えた』など、何らかの変化があったと回答している。(グラフ②⑦)

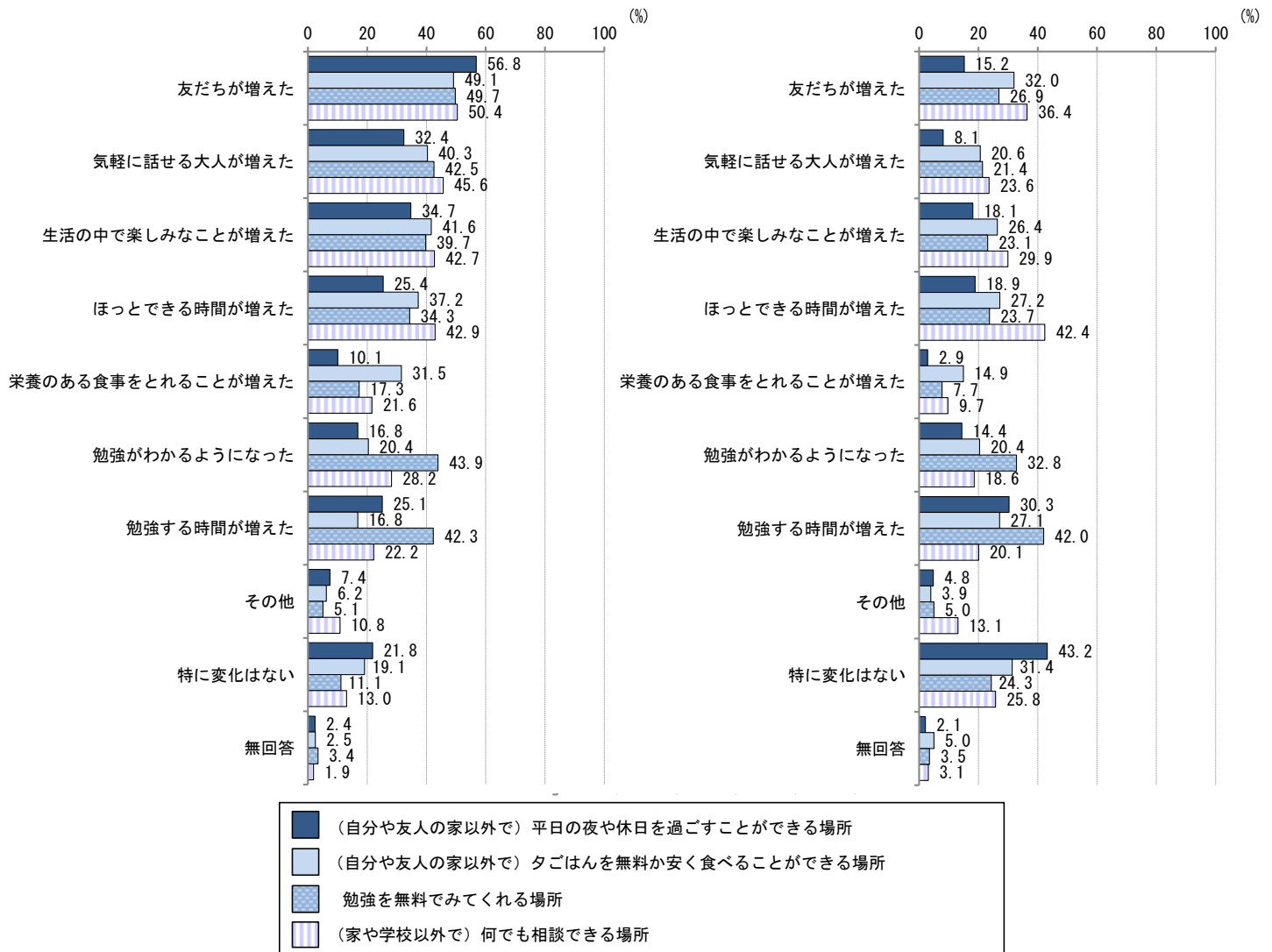
<グラフ②⑥ 子供の居場所の利用状況>



<グラフ②⑦ 子供の居場所の利用効果>

【小学5年生】

【中学2年生】



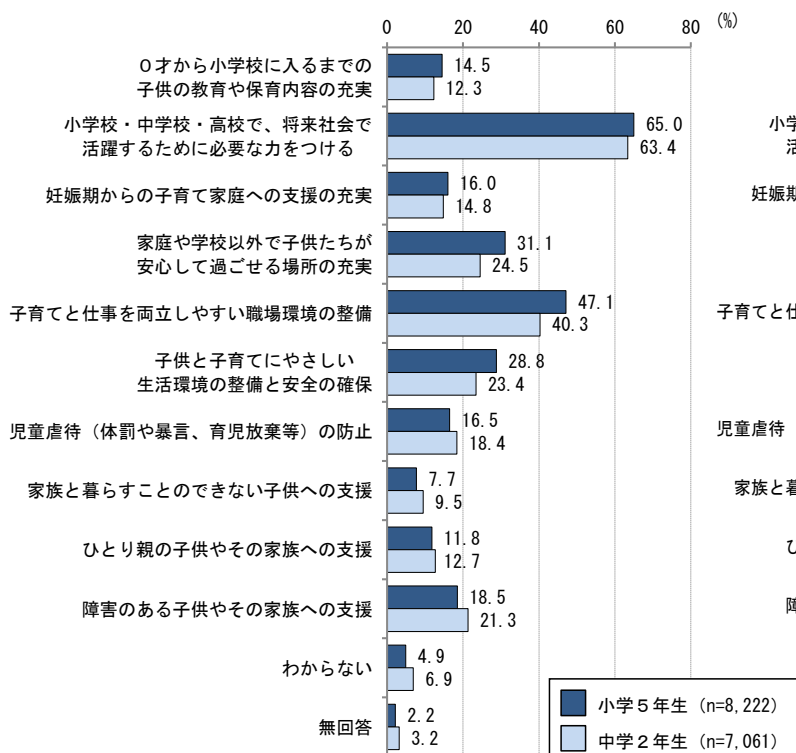
7 広島県の子供政策への希望

○ 広島県の子供に関する取組で特に力を入れてほしいと思うことについては、保護者・子供のいずれも『小学校・中学校・高校で、将来社会で活躍するために必要な力をつける』が最も高くなっており（「わからない」を除く）（グラフ⑳）、選んだ理由としては、自由記載において、塾に行かなくても学校で必要な学力が身につけられるようにしてほしいといった意見のほか、勉強以外の将来社会で役に立つことをもっと学びたいという意見がみられる。

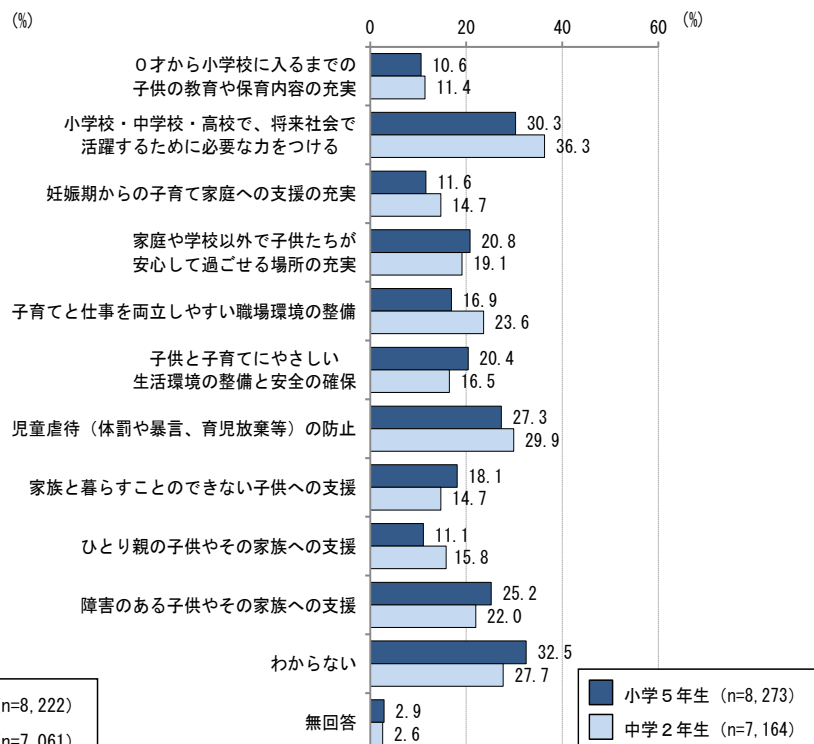
次に高いのは、保護者では『子育てと仕事を両立しやすい職場環境の整備』、子供では『児童虐待（体罰や暴言、育児放棄等）の防止』であった。

<グラフ⑳ 広島県の子供政策への希望>

【保護者】



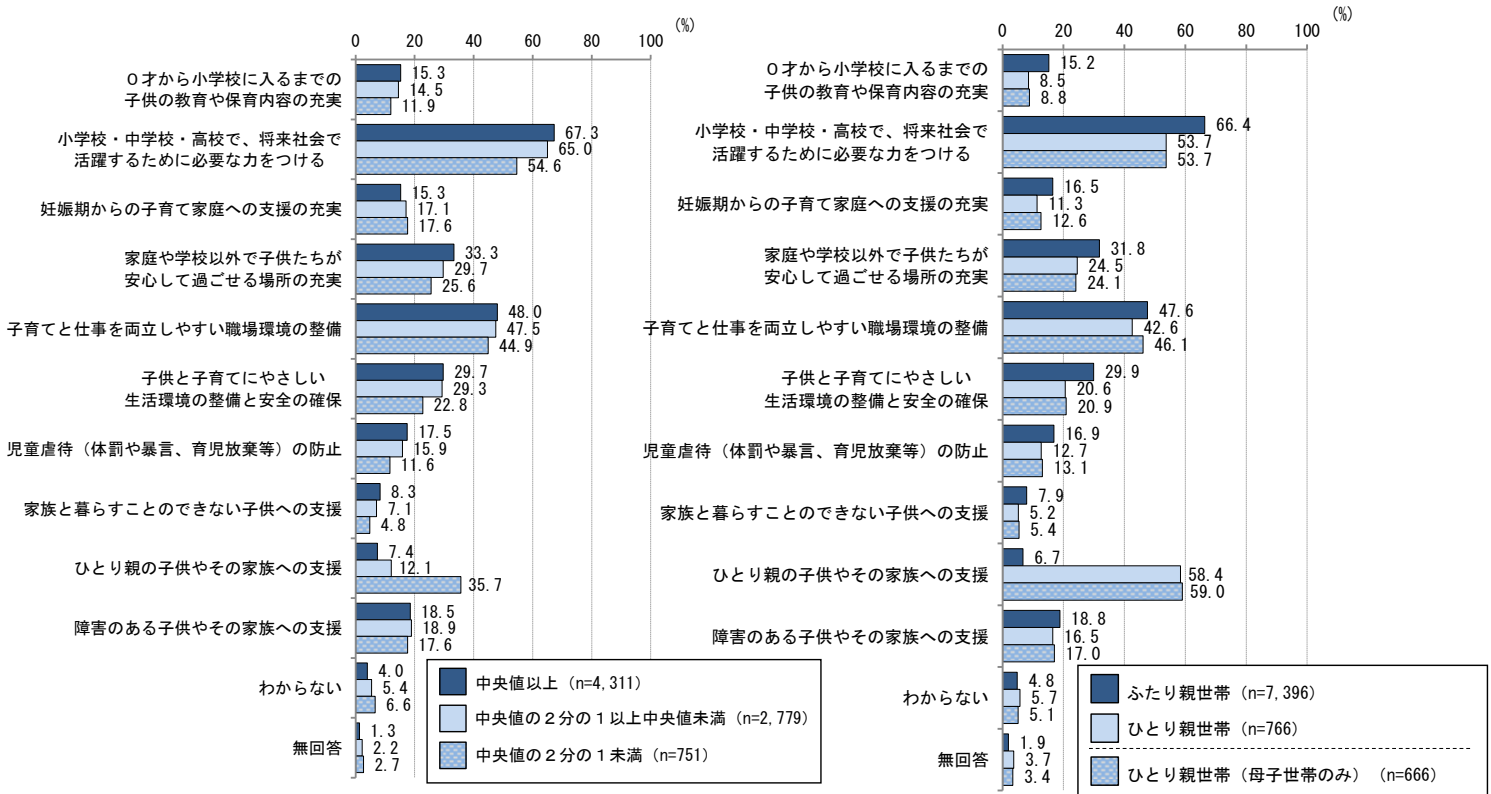
【子供】



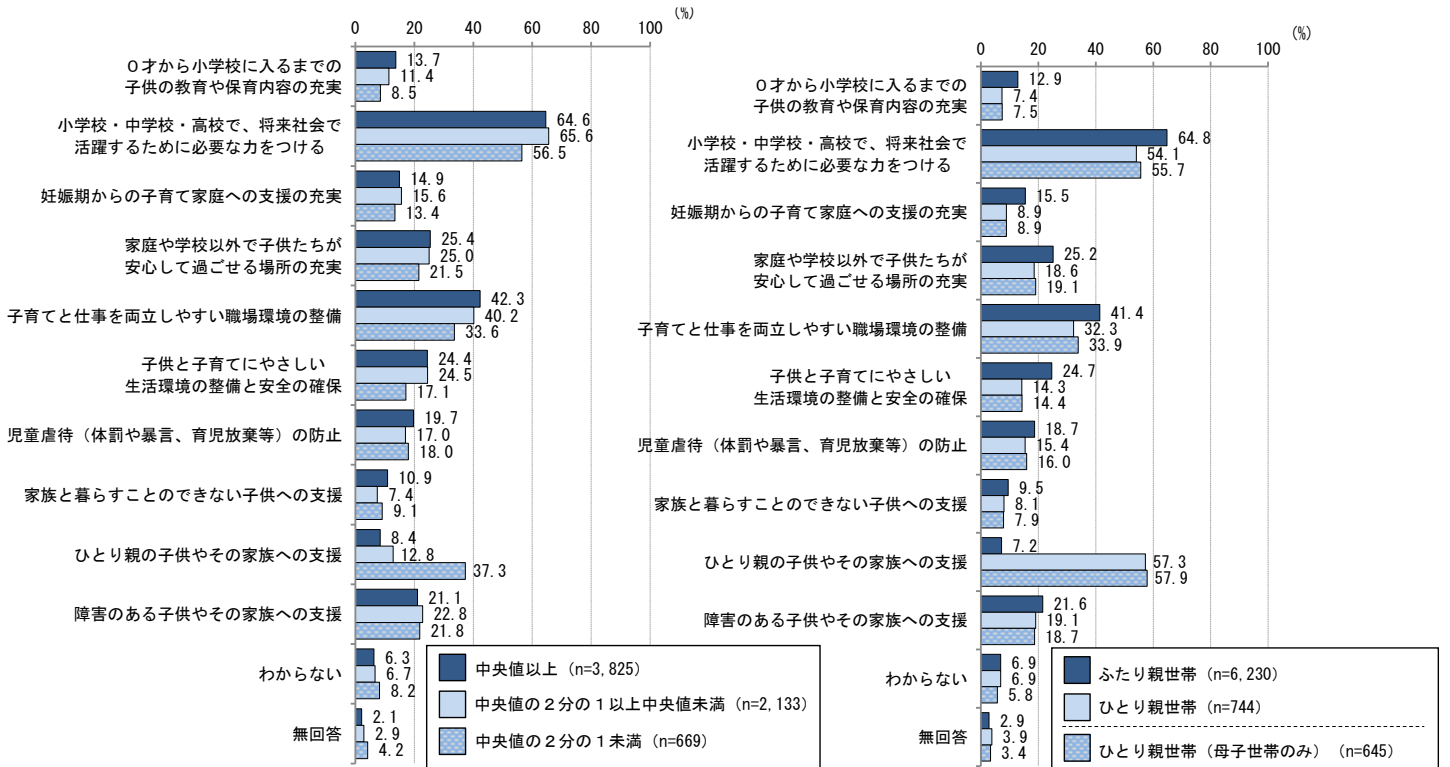
○ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、『ひとり親の子どもやその家族への支援』が高くなっている。(グラフ⑳、㉑)

<グラフ㉑ 広島県の子供政策への希望(保護者) =経済状況・世帯状況別=>

【小学5年生の保護者】

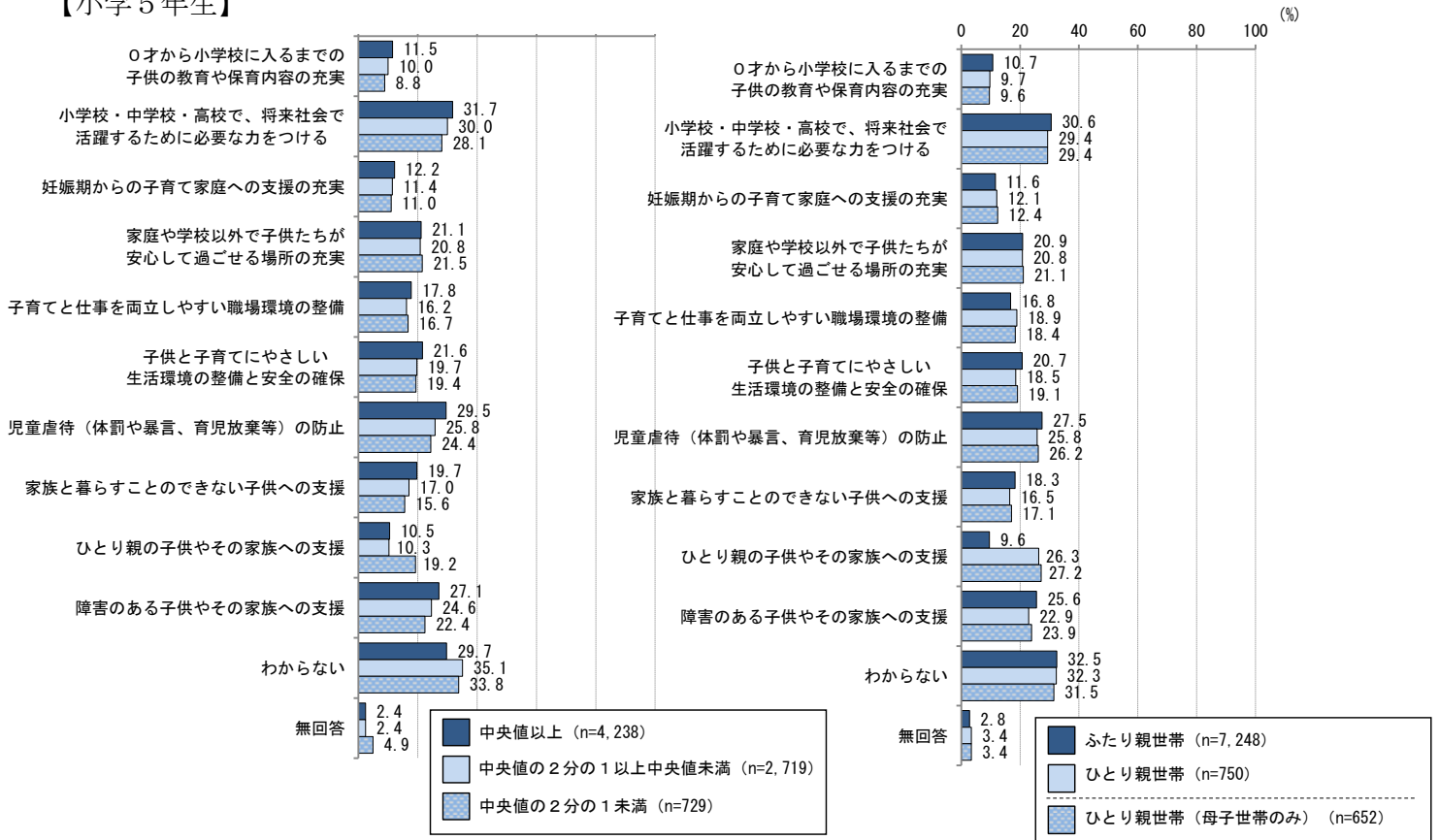


【中学2年生の保護者】



<グラフ③⑩ 広島県の子供政策への希望（子供） =経済状況・世帯状況別=>

【小学5年生】



【中学2年生】

